

して寸毫の違失なからしむる主人の如し。

参照

- 『成唯識論』十卷の護法等作 玄奘譯〔往條〕
- 『成唯識論述記』二十卷 窺基作〔續藏經七七一五〕
- 『成唯識記了義燈』七卷 慧沼作〔續藏經一七三八〕
- 村上博士『佛教統一論』第二編〔一八〇五頁〕
- 前田博士『大乘佛教史論』六〇―九二―七四頁〔二〕

第六節 清辨の小傳

護法が無著・世親の教系を承けて頼耶緣起論の法門を擴充宣揚したる時代に於て、之に對立して龍樹・提婆の教系を繼ぎ、諸法實相論の法門を弘通したる大家を清辨〔梵 Dharmapala〕とす。清辨は西曆第六世紀の人にして、南印度に生る、長

實相論者

布教作論

じて外道の教學を修め、轉じて佛教に入り、大乘教を奉ず。古來案達羅國〔Andhra〕を中心とする南印度東岸の地は、先に大衆部の教義行はれて自由寛裕の佛教思想流布し、後に龍樹が唱へたる大乘教弘通せられ、久しく此の地方に信仰せらる。清辨の時代には、南印度の東岸今のキストナ河〔Kistna〕の下流地方に馱那羯磔迦國〔梵 Dhanakastika〕あり、清辨は此國に留りて教を弘め、『大乘掌珍論』を著はし、龍樹の法門を闡明せり。時に護法は摩揭陀國にありて盛んに無著・世親の教義を傳へ、學徒數千に達するを聞き、清辨自ら華氏城に至り、護法に見へんと欲したるも、護法は既に大菩提寺に退きたるを以て、清辨は教理上の議論をなさんとし、進んで大菩提寺に赴きしが、護法は論争を避け會見を好まざりければ、清辨

著作

空しく南印度に歸れり。これより清辨は馱那羯磔迦國の首府の附近にある一石山に住し、彌勒の出世を待つと稱して遂に入定寂滅す。清辨の著作として現存するもの左の如し。

大乘掌珍論 二卷 玄奘譯（五佚）

般若燈論釋 十五卷 波羅頗蜜多羅譯（五佚）

『大乘掌珍論』は龍樹の教系たる實相論の立脚地にありて大乘の教義を説きたる書にして、『般若燈論釋』は龍樹の『中論』を解釋せる書なり、この書は分別明の釋論とすれども、分別明は清辨の原語 Bhavaviveka の異譯なれば、今清辨の著作として茲に出だせり。

参照

拙著『解説西域記』（八二三頁）

應用の術語

第七節 清辨の教義

清辨は龍樹の教系を承けて諸法實相論を主張したるが故に、其所説は根柢に於て龍樹の教義と同一なりと雖も、其説述の方法に至りては、多少龍樹に異なるものあり。第一は説明に應用せる術語同じからざる點にあり。龍樹は佛教の中にては、小乗を破斥することを一大眼目となせり、而して當時小乗諸部の中にも有部最も盛大なれば、龍樹は迦梅延子が使用せし術語を應用して、大に有部を論難したり。然るに、清辨の時代に至りては、同じく大乘の中にありても、世親の賴耶緣起論甚だ盛大なれば、清辨は世親が『唯識論』等に使用せし術語を應用して、大に世親の緣起論を批評したり。清

二諦の見解

辨は俗諦門即ち現象界の説明をなすに當り、三性・八識・阿頼耶識・種子等の術語を用ひたり。第二は眞俗二諦の見解稍や異なる點にあり。龍樹の説によれば、眞俗二諦は迷妄に陥れる人々を教導せんが爲に設けたる説明にして、實相は俗諦にも非ず眞諦にも非ず、二諦を超絶して言思の以外にありといふにあり。然るに、清辨は有といひ無といふは皆俗諦にして、實相は是れ眞諦なりといひ、多少の變遷あり。賴耶緣起論にありては、偏計所執性を空とし俗諦となし、依他起性・圓成實性を有とし眞諦とするに對して、清辨は、偏計所執性・依他起性の如く空有の差別あるものは、共に是れ俗諦なり、圓成實性のみは言思を超絶して不可知なり、是れ眞諦なりと説き、賴耶緣起論を批評したり。

参照

『大乘掌珍論』二卷 玄奘譯〔五〕

『大乘掌珍論發揮』三卷 寶雲説

前田博士『大乘佛教史論』〔三二四頁〕

第十四章 戒賢智光時代の佛教

護法の弟子には、勝友・最勝子・智友・親光・戒賢等ありて、戒賢最も著はる。清辨の法統を承けたるものは智光・師子光等にして、戒賢と共に那爛陀寺に住し、盛んに教理上の議論なせり。

第一節 戒賢の小傳

戒賢(梵 Silabhadra)は恆河の河口にある三摩呬吒國(梵 Sam-
ata)の王族にして、西曆第六世紀の前半、首府(今 Faridpur)に
生る。少にして學を好み、明哲を求めて印度諸國を歴遊す。時

護法の弟子

對論

に摩揭陀國那爛陀寺に護法あり、世親の教義を奉じて、賴耶
緣起論を主張し、大學の學匠として子弟を教育せり。戒賢は
那爛陀に留學し護法の説を聞くに及びて深く之に敬服し、
遂に出家して其弟子となる。戒賢は是れより聲明(文法)・因明
を始め、無著の『瑜伽論』、世親の『唯識論』等を學び、佛教の學に
通ず。時に南印度に一外道あり、中印度に於ける護法の高名
を嫉み、自ら摩揭陀國に來り、護法を屈伏せんと欲して對論
を求む。戒賢時に年三十、護法に代りて自ら對論せんことを
請ふて止まず、護法は戒賢が年尙ほ若く、或は論議に敗れん
ことを恐れ、試みに自ら外道の説を立て、戒賢を論難せし
が、戒賢は一々之を破斥し、外道の教理は一として完きもの
なし、是に於て護法は益々戒賢を信じ、自己に代りて外道に

教育

對せしむ。乃ち尼連禪河の東にある一山上に於て外道と對論し、直に之を屈伏したり。摩揭陀國王は戒賢の功を嘉し、山麓に一寺を建て、記念となす。護法が那爛陀の學匠を退くに當り、戒賢之に代りて子弟を教育すること數十年の久しきに亙る。西曆六百三十三年、支那の玄奘來りて其門に入り、『瑜伽論』『唯識論』等を學び、世親の教系を支那に傳へたり。

参照

拙著『解説西域記』(七三四頁)

第二節 戒賢の教義

護法は世親の教系を繼承して之を擴充せしが、戒賢は教育上より之を普及せしめたり、故に戒賢が盛んに宣説した

緣起論者

三時教判

るは、『瑜伽論』『唯識論』等に出づる唯心論即ち賴耶緣起論なりき。戒賢は釋迦一代の教法を分類して、有教・空教・中道教の三時教判を與へ、小乘を有教に、龍樹の教義を空教に、世親の教義を中道教に配當し、龍樹の教系に屬する空教は哲理上尙ほ至らざる所ありとして之を貶し、世親の教系たる中道教に至りて最も完全の域に到達せりと稱し、世親の教義を以て至上發展の終極にありと説けり。

第三節 智光の教義

智光(梵 Jñānaprabhā)は清辨の弟子にして龍樹の實相論を繼承す。智光は釋迦一代の教法を分類して心境俱有教・心境空教・心境俱空教の三教を立て、小乘教を心境俱有教に、世

實相論者

三教分類

親の教義を心有境空教に、龍樹の教義を心境俱空教に配當し、世親の教義を貶して尙ほ至らざる所ありとし、龍樹の教義を以て、佛教教理發展の至極なりと稱せり。智光は那爛陀寺に住して大學に子弟を教授したれば、戒賢は之に對して、この大學に於て頼耶緣起論を主張し、那爛陀寺は大乘佛教に於ける二大教系の交叉地として、印度佛教哲學の淵叢となれり。

第四節 那爛陀寺

那爛陀(Nalanda)は佛陀の時代に於て一村落に過ぎざりしが、佛陀は屢々この地に遊化し、舍利弗は此村に生れ、又た生家にありて入滅したれば、佛教の因縁淺からず。西曆第五

六世紀には、帝日覺護、如來護、力日、金剛等の諸王は那爛陀の寺院を増築し、或は寺領を與へ、或は學寮を建てたれば、那爛陀寺は盛大となり、印度全國より留學する者數千人に上りたり。西曆第七世紀、玄奘、義淨が留學せし時代の那爛陀寺は堂塔伽藍甚だ多く、大學にある留學生皆博學にして、佛教研究の中心たり。當時佛教を修むる者、各々其地方に於て學者の下にありて經論を學ぶこと數年、學識昇達の後、更に那爛陀寺の大學に入りて、數年間教學の蘊奧を窮む。凡そ那爛陀大學に入學を志願する者は、諸學者列席の前に於て口述試験として哲理上の論議を爲さるべからず、學力拙劣にして試験に合格せざる者は、入學を許さず、學力優秀にして有望の人々のみを收容す。故に那爛陀大學は學者の淵叢とし

て、學匠の位置にある人は勿論、一留學生と雖も、皆見識ある學者なり。されば當時那爛陀出身の佛教家は堂々たる學者として、印度全國に於て優待せられたり。

参照

拙著『解説西域記』(七三五頁)

第五節 師子國の佛教

師子國にありては、西曆六世紀の中葉、無畏山の僧にして邪義を主張する者あり、國王は正統の教義を保護して之を排斥す。第七世紀の初、無畏山派の祇園寺に住する二人の僧は摩訶毗訶羅の一派が、密に經典を改作して庶民を欺けりと唱へ、兩派の間に諍議を生じ、久しく相反目したり。

兩山の諍議

第十五章 玄奘入竺時代の印度佛教

第一節 印度諸王

玄奘入竺時代に戒日王(梵 Śīladitya 在位西曆六〇六—六四八)あり、一にハルシヤ(梵 Harṣa)といふ。王は印度を統一せんと欲し、多年干戈を動かしたるが、漸次印度北半を統一し、進んで南印度を攻略せんとするに當り、其大軍敗れて復た南印度攻略の志を起さず、専ら治平に心を注ぎ、内政を改革して租税を軽減し、人民の休養を計りて博愛慈善の業を行ひ文學を奨励したる結果、印度文化の進歩甚だ大なり。戒日王は印度の宗教を保護し、佛教を外護すること篤く、入竺中の

玄奘も、王の殊遇を蒙る。當時印度の状況は領土西北に擴り統治上交通上の關係よりして、戒日王は曲女城(梵 Kanjarkud)に都を定む。されば曲女城附近一帶の地方に大乘教甚だ流行したるは、王の保護與て力あるもの、如し。王嘗て曲女城に無遮の大會を開きて印度各教派の宗教家を招く、佛者にして會するもの五千人、その中三千人は那爛陀の僧なり、玄奘も亦之に列せりといふ。

戒日王の時代に補羅稽舍王(梵 Pulikesin)あり、摩訶刺佗國(巴 Maharahita)王にして印度南半に覇たり。王は武勇にして兵を練り、將士皆慄悍にして善く王の號令に服す。戒日王が南印度を攻略せんとするに際し、軍を出して之をナルマダー河(Narmada)に禦ぎ、戒日王の兵を敗り、復た南印度を攻むる

補羅稽舍王

拘摩羅王

こと無からしめたり。王は佛教を保護せしや明ならずと雖も、別に佛教迫害の事實を傳へざるを以て、思うに領内の諸教を公平に待遇したるものか。東印度に設賞迦王(梵 Sasanka)出で、一時排佛の暴威を振ひ、堂塔を破毀したるが、玄奘入竺時代には、拘摩羅王(梵 Kumara)あり、戒日王の覇權に従ひ、自ら外道を信ずと雖も、佛教徒にも信仰の自由を與へ、玄奘を招きて佛教の教理を聞きたりといふ。

参照

拙著『解説西域記』(三四七—三六三)

第二節 佛教の分野

玄奘入竺時代の印度には、大乘・小乘・外道並び行はれ、西印

小乘

度の信度(Sind)・摩臘婆(Malava)・南印度の達羅毗荼(Dravidia)師子國には小乘盛大にして、何れも數萬の小乗僧あり。迦濕彌羅・恆河の上流地方・恆河の中流地方・恆河の河口・カーティアーワール(Katihawar)半島にも多數の小乗僧あり。然れども、印度全體としては大乘甚だ隆盛なり、北印度の烏仗那(Udyana)・中印度の劫比他(Kapitha)・摩揭陀・南印度の憍薩羅(Kosala)・恭建那(Konkana)の如きは大乘隆盛にして、何れも數萬の大乗僧あり。外道は東印度に一箇處、恆河中流に一箇處の中心を有し、諸處に散在せる教徒と相應じて佛教に對抗せり。

大乘

外道

第十六章 義淨時代の佛教

第一節 義淨の入竺

玄奘は陸路印度西域を巡歴して佛教の狀態を説きしが、義淨は海路印度南海を巡歴して佛教の傳播を示せり。義淨は唐の高宗咸亨二年(西曆六七二)廣州より船に乗り、南海の室利佛逝梵(Sribhoja)即ち今のスマトラ島(Sumatra)に往き、更に進んで印度に入り、王舎・吠舍離・拘尸・迦毗羅・舍衛婆羅奈斯・憍賞彌等の諸城に至りて佛蹟を禮拜し、大菩提寺にある佛陀成道の靈蹟に詣で、那爛陀寺の大學に入りて佛教及び梵語の奥義を窮む。歸路復た室利佛逝國に留り、中宗の嗣聖十二

南海

巡禮

年(西曆六九五)則天武后統治の時期を以て支那に歸る、在外前後二十五年の久しきに及べり。

第二節 義淨時代佛教の傳播

支那

支那にありては、後漢の明帝十年(西曆六七)北印度より佛教を傳へて以來、兩晉南北朝、隋を経て唐代に至り、國運の隆盛と共に佛教頗る盛大となり、義淨の時代に於て、佛教の中心は長安洛陽成都荊州金陵台州廣州にありて、至る所、佛教を奉ずる僧俗甚だ多し。朝鮮にありては、三國分立時代、高句麗の小獸林王二年(西曆三七二)秦王符堅は僧順道をして佛像經論を携へ、高句麗に赴かしめ、支那北部の佛教始めて韓土に傳はる。百濟の枕流王元年(西曆三八四)胡僧摩羅難陀は

新羅

東晉より來り、支那南部の佛教を百濟に弘む。新羅は四五十年の後、高句麗より佛教を傳へ、法興王以來、佛教大に興り、眞興王の世には、梁陳に留學し、歸國して佛教を弘通する者甚だ多く、文武王(在位西曆六六一—六八〇)の世、高句麗、百濟の地を併せ、佛教は韓土全部に行はれたり、恰も義淨の時代に當る。日本にありては、欽明天皇十三年(西曆五五二)百濟の聖明王が佛像經論を獻じ、佛教渡來して以來、次第に信者を増加し、推古天皇の世、聖德太子出で、佛教を奉じ、天智、弘文の二帝を経て、天武天皇(在位西曆六七三—六八六)に至り、復た佛教を保護し、日本の佛教甚だ盛なり、恰も義淨の時代に當る。支那、三韓、日本は何れも大乘教を信じ、小乗は單に學術上の研究として修學せらるゝに過ぎず。

日本

朗迦成

扶南

南海

吐蕃

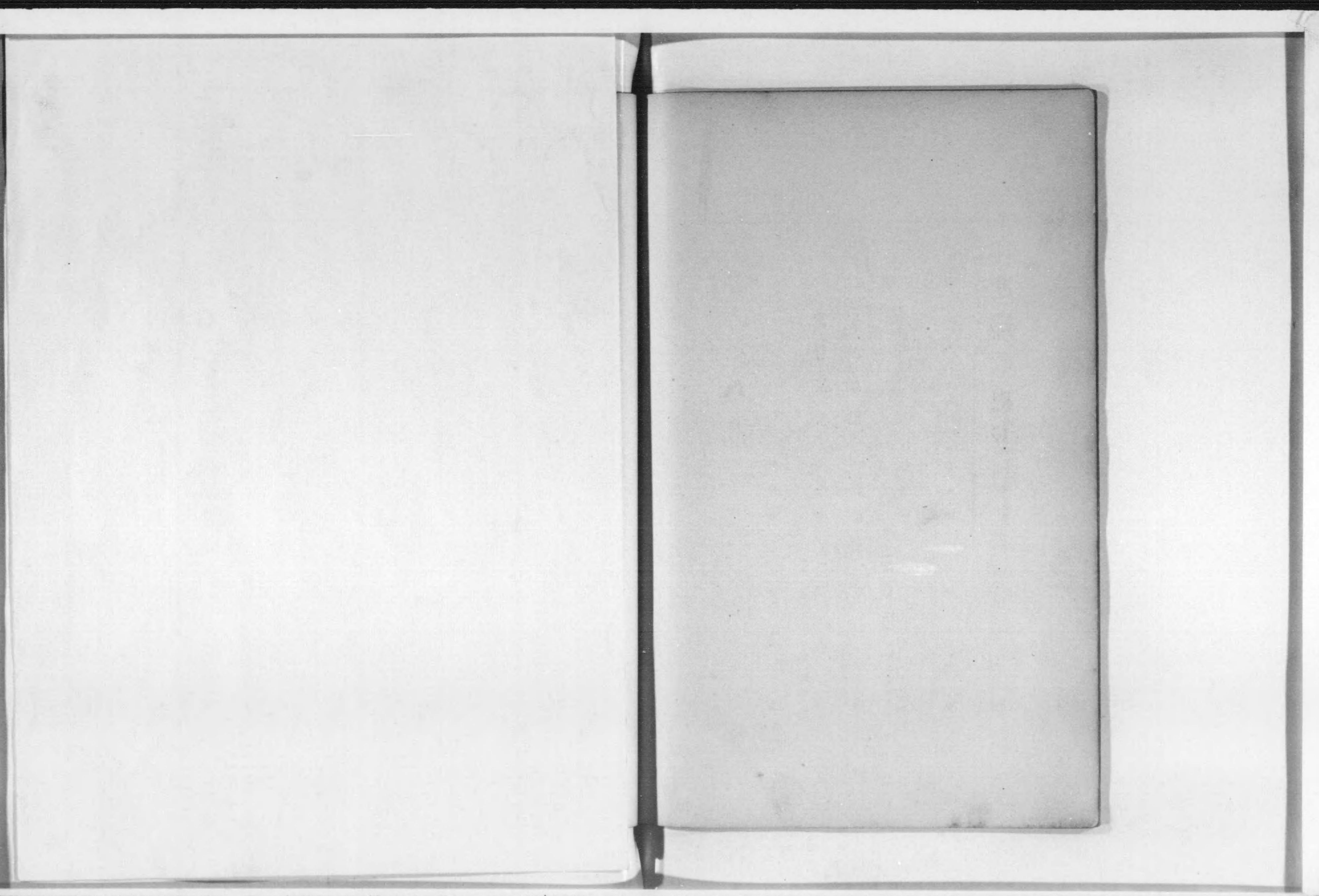
これより先き西暦四百五十年、師子國の僧が緬甸に來りて小乗佛教を傳へ、義淨時代の朗迦成(今の緬甸)に小乗教一般に行はる。扶南(今の暹羅)にありては、西暦六百三十八年、師子國より小乗教を傳へて以來、義淨時代小乗を信奉せり。交趾は支那より眞臘は、印度より夙に大乘教を傳へ、占波(林邑)にはの小乗教行はれ、義淨時代何れも佛教流傳せられたり。室利佛逝竝に訶陵(Kalinga 今の瓜哇)は、西暦第五六世紀、南印度より小乗教を傳へ末羅遊には少しく大乘あり、皆義淨時代佛教を修め、梵語を學ぶ者甚だ多し。吐蕃(西藏)にありては、國王弄贊(Sronsan)西暦六百三十二年を以て、其臣トニミ・サムボータ(Tonmi Sambhota)を印度に遣はして經論を得、佛教吐蕃の地に弘まる。是より以來、大乘教吐蕃に行はるゝに至れり。

諸行無常 是生滅法
 生滅滅已 寂滅爲樂

〔涅槃經〕

印度佛教史 終

印度佛教史



索引

略符:—*skt.* Sanskrit, *p.* Pāli, 1, 2, 3,...頁數

ア 行

- | | |
|--|---|
| 阿育 <i>skt.</i> Aśoka (王)..... | アリヤ Aria (州)..... 33 |
|1, 22, 25, 27-31, 33-38, 40, | 安慧 (論師)..... 167 |
| 45-46, 49-50, 52, 54, 56-57, 59, 61, 130 | 案達羅 <i>skt. p.</i> Andhra (國)... |
| 阿闍世 <i>skt.</i> Ajāśatru (王)... 7-8 | 55, 161, 181 |
| アジャンター窟寺 Ajaṅṭā... 161 | アンティオコス Antiochos |
| 頽波曰 <i>skt.</i> Aśvagupta (高僧) | (王)..... 52-3 |
| 63 | アンティゴナス Antigonas |
| 阿波蘭多迦 <i>p.</i> Aparantaka (國) | (王)..... 52-3 |
| 55 | アンドラ (國)(案達羅に同じ)... 52 |
| 阿槃提 Avanti (國)..... 18 | 闇林寺 <i>skt.</i> Tamasāvana |
| 阿毗達磨毗婆沙論 (書名)... 136 | Saṅghārāma 67 |
| 阿毗達磨順正理論 (書名)... 136 | 易行品 (卷名)..... 102 |
| 阿毗曇論 (書名).....78-9 | 一異の妄見 105 |
| 阿難 <i>skt. p.</i> Ānanda (佛弟子) | 一切去 <i>p.</i> Sabbakāmi (高僧) 19 |
| 9, 11 | 一切智者 79 |
| アヌラー Anurā (王妃)..... 58 | 一心 92 |
| アヌラーダ城 Anurādhapura | 一説部 74, 76 |
| (都名)..... 58 | 一地臬 <i>p.</i> Iddhiya (高僧)..... 57 |
| 阿彌陀 <i>skt.</i> Amitābha (佛)... | 飲光部 75, 80 |
| 98, 102 | 引正 <i>skt.</i> Śatavāhana (王)... 100 |
| 阿踰陀 <i>skt.</i> Ayodhya (國)... | 因明正理門論 (書名)..... 161 |
| 129, 133, 136-8 | 因明論理 164 |
| 阿羅漢 (悟位)..... 43-4 | 有爲法 47, 71-2 |
| 阿頼耶識 140-2, 163, 174-7 | 有部 (宗派)..... |
| 阿梨耶識 94-5 | 2-3, 66, 73, 103, 119, 135-6, 183 |
| アラホシヤ Arachosia (州)... 33 | 有餘涅槃 150 |
| | 雨行 (大臣)..... 8 |

雨色 *skt.* Meghavarna (王)... 117
 烏夷 (國)..... 131
 烏澹 Oxus (河)..... 157
 烏闍衍尼 *skt.* Ujjayani (城)
 27-8, 56-7
 烏長 *skt.* Udyāna (國)..... 130
 烏仗那 (烏長に同じ)..... 196
 優波笈多 *skt.* Upagupta (高僧)
 39
 優波提舍 *skt.* Upadeśa..... 85
 優波離 *skt. p.* Upāli (佛弟子)... 9
 優婁頻螺 *skt.* Uruvilvā (村)... 39
 優樓漫陀 *skt.* Urumaṇḍa (山)
 39
 鬱多羅 *p.* Uttara (高僧)..... 55
 鬱帝臾 *p.* Uttiya (高僧)..... 57
 依他起性 144
 緣起論 166-7
 閻膏珍 (月氏王)..... 82
 圓成實性 144
 王舍城 *skt.* Rājagṛha (都名)
 6, 8
 王舍城結集 6, 9
 應身 (佛陀の)..... 98, 153-4
 應身佛 48

力 行

迦尸 *skt. p.* Kāśi (國)..... 130
 華氏城 *skt.* Pāṭaliputra... 25, 27,
 29-31, 35, 45, 49-51, 54, 57-8, 90, 130
 迦奢城 *skt.* Kaśyapapura... 170-1

迦葉 *skt.* Kāśyapa (佛弟子)... 80
 迦濕彌羅 *skt.* Kaśmīra (國)
 83, 86, 91, 119, 133, 137, 159, 196
 迦梅延子 *skt.* Kātyāyaniputra
 (論師).... 2, 66, 70, 72, 121-2, 144-5, 183
 カーティヤーワール Kāthiā-
 wār (半島)..... 62, 196
 カーブル Kābul (城)..... 63, 83
 火辯 (論師)..... 163
 迦那提婆 *skt. p.* Kāna Deva
 (論師)(提婆に同じ)..... 111
 迦膩色迦 *skt.* Kaniska (王)...
 2, 83-7
 迦毗羅城 *skt.* Kapilavastu... 29
 迦羅阿育 *skt.* Kāla Aśoka
 (王)..... 18
 訶梨跋摩 *skt.* Harivarman
 (論師)..... 3, 119-121, 125-6
 訶陵 Kalinga (南海の國名)... 200
 我空法有 46, 72, 78, 103
 我法二空 121
 伽耶 Gayā (地名)..... 39
 海 *skt.* Samudra (比丘)..... 37-8
 海護 *skt.* Samudragupta (王).
 117
 戒賢 *skt.* Śīlabhadra (論師)...
 186-190
 戒日 *skt.* Śīlāditya (王)... 193-5
 界外の衆 11-12
 界内の衆 11-12
 竭叉 (國)..... 131

カリンガ *skt.* Kalinga (印度
 の國名)..... 34, 38, 52
 觀所緣緣論釋 (書名)..... 172
 カーンボージャ Kāmbhoja
 (種族)..... 52
 瓊林寺 86
 祇園 *skt.* Jetavana 40
 祇園寺 192
 義淨 (三藏)..... 166, 191, 197-200
 貴霜朝 *skt.* Kuṣāna..... 83
 起信論 (書名)..... 92
 脇 *skt.* Pārśva (高僧)..... 84, 90
 恭建那 Koṅkaṇa (國)..... 196
 憍薩羅 (國)..... 100, 112, 196
 憍尸迦 *skt.* Kauśika (學者)... 132
 憍賞彌 *p.* Kosambi (城).....
 18, 133, 138
 喬答摩 6
 經藏 10, 85
 經部 (宗派)(經量部の略稱)... 135-6
 經量部 75, 80
 匈奴 *skt.* Hūṇa (民族)... 3, 157-8
 丘就却 (王)..... 83
 曲女城 *skt.* Kanyākubja... 194
 禁呪藏 11
 空觀 132
 空心 125-6
 孔雀朝 26, 33, 60-61
 俱舍論 (書名)..... 136, 139
 クジュラ・カドフィセス Kujula
 Kadphises..... 83

拘尸城 *skt.* Kuśinagara.....
 6, 8, 40
 拘摩羅 *skt.* Kumāra (王)... 195
 屈闍須毗多 *p.* Khujjasobhita
 (高僧)..... 19
 瞿摩帝寺 Gomati..... 131
 鳩摩羅陀 *skt.* Kumārāda (學僧)
 119
 笈多朝 Gupta..... 128, 157
 百濟 (國)..... 198
 假有 122, 124
 假心 125-6
 解深密經 140
 化地部 (宗派)..... 75, 79
 鷄胤部 (宗派)..... 75-6
 鷄園寺 45, 49, 51
 屬賓 *skt.* Kaśmīra, *p.* Kas-
 mira (國)(迦濕彌羅に同じ)..... 54
 月護一世 Candragupta I. (王)
 128
 月護二世 Candragupta II. (王)
 129
 月氏 (種族)..... 83
 結集 5, 10, 12, 85
 ゲドロシヤ Gedrosia (州)..... 33
 堅慧 *skt.* Sthiramati (論師)... 166
 現行薰種子 177
 建志城 *skt.* Kāñcipura..... 169
 玄奘 (三藏)..... 85, 191, 193, 195
 健陀羅 *skt. p.* Gandhāra (國)
 54-5, 83, 132, 157-8

賢胃部 (宗派)..... 75, 79
 見分 178-9
 還滅門 96
 顯揚聖教論 (書名)..... 134
 古因明 164
 護月 *skt.* Candrapāla (論師).. 168
 護法 *skt.* Dharmapāla (論師)
 3, 163, 169-79, 181, 186
 個人我 69, 72, 78, 103, 121
 五阿含 11
 五位 70-71
 五位百法 142-3
 五蘊 67-3, 78, 103
 五境 70-1
 五行 98
 五根 70-1
 五支作法 164
 五藏 11, 80
 五百集法 6
 虛空 71
 悟入 (論師)..... 135
 業 70, 72
 恆河 114, 196
 業感緣起 67, 69, 120
 高句麗 (國名)..... 198
 交趾 (國)..... 200
 廣州 (地名)..... 197
 却比他 *skt.* Kapitha (國).... 196
 黑蜂山 *skt.* Bhrāmara-giri... 100
 極樂世界 98
 コダーブリー Godāvārī (河) 34

金地 *p.* Suvāṇṇabhūmi (國)... 55
 根本上座部 (宗派)..... 67, 74
 根本心識 81
 根本大衆部 (宗派)..... 74

サ 行

差別相 94, 97
 細意識 80
 サークータ Sāketa (地名).... 62
 薩婆多部 (宗派)..... 66
 三支作法 164-5
 三時教判 189
 三世實有法體恆有 72
 三性 144-5, 147, 149
 三身 64
 三身 (佛陀の)..... 153-4
 三大 92, 97
 三諦 123
 三德 (涅槃の)..... 150
 三浮陀 *p.* Sāma-sambhūta... 19
 三分説 163
 三摩呬吒 *skt.* Samatāṭa (國).. 183
 三無性 147-9
 參婆樓 *p.* Sambala (高僧)... 57
 四阿含 10
 四信 98
 四種の涅槃 150-1
 四種の菩提 151-2
 四分説 178
 子合 (國)..... 131
 始覺 96

支提寺 156
 支那 (國)..... 198
 至那僕底 *skt.* Cinabhukti (國).. 67
 師子鎧 (論師)(詞梨跋摩に同じ).. 119
 師子國 ... 56, 61, 111, 116, 130-1, 156
 事火外道 50
 錫蘭 (島)..... 4, 56
 自受用身 153
 自性身 153
 自證分 178-9
 色法 70-1, 143-4
 舍衛 *skt.* Śrāvastī (都名).... 40
 奢羯羅 *skt.* Śāgala (城).....
 63, 138, 158
 舍利弗 (佛弟子)..... 40, 78-9, 190
 沙祇多 *skt.* Śāketa (城)..... 89
 沙留 *p.* Sālha (高僧)..... 19
 閻樓伽 *p.* Jalogi (酒)..... 14
 受用身 153
 衆賢 *skt.* Saṅghabhadra (論師)136
 衆聖點記 5
 種子 81, 168
 種子生現行 176-7
 種子新生説 168, 174
 種子説 80
 種子本有説 168, 176
 種子論 176
 十地經 137
 十地經論 (書名)..... 134, 139, 174
 十住毗婆沙論 (書名)..... 102
 十二緣起 69

十二處 67-9, 103
 十二門論 (書名)..... 101-2
 十八界 67-9, 103
 順道 (高僧)..... 198
 諸法實相論 180, 182-3
 小阿含 9
 淨月 *skt.* Śuddhacandra (論師)
 168
 勝義我 78-9
 勝義無自性性 147
 勝義無性 147-8
 上座 11, 12
 上座部 (宗派).....
 ... 11-12, 41, 46-7, 49, 66-7, 80-1, 173
 上座提婆 *skt.* Thera Deva... 111
 證自證分 179
 生死流轉 67, 69, 73
 生身 110, 154
 生身佛 110
 生無自性性 147
 生無性 147-8
 生滅の妄見 105
 生滅門 92, 94
 攝大乘論 (書名)..... 134, 139
 攝大乘論釋 (書名)..... 139, 162
 淨土論 (書名)..... 139
 清辨 *skt.* Bhāvaviveka (論師)
 3, 180-4
 成住壞空 72
 成實論 (書名)..... 120
 成所作智 151-2

成唯識寶生論 (書名).....	172	gupta (王).....	157
成唯識論 (書名).....	171-2	スマトラ Sumatra (島).....	197
正量部 (宗派).....	75, 79	修摩那 p. Sumāna (高僧).....	19
七十五法	70-1	— — (王子).....	29-30
七百集法	13	修私摩 skt. Susīma (王子).....	30, 35
七葉窟 skt. Saptaparṇa-guha..	8	須那迦 p. Sonaka.....	55
實有	122, 124	世親 skt. Vasubandhu (論師)	
實相	105-7, 109, 116	3, 132, 135-8, 140, 143-4, 149, 153-4, 161-3, 173, 180-7, 190
實相論	165-6, 174	世諦	122
室利佛逝 skt. Śrībhōja (國).....	197, 200	世友 skt. Vasumitra (論師)....	84
新因明	164	西山住部 (宗派).....	75-7
心王	70	制多山	57
心王八法	143-4	制多山部 (宗派).....	75, 77
心所法	70-1, 144	說一切有部 (宗派).....	66, 75, 78
心性	48	說戒	16
心法	75-1	說假部 (宗派).....	75, 77
真與 (王).....	199	說出世部 (宗派).....	74, 61
親勝 (論師).....	167	析空觀念法	73
真空	123, 125	設賞迦 skt. Śāśāṅka (王)....	195
真俗二諦	184	雪山邊 p. Himavantapada (國)	
真諦 (三藏).....	11, 130	55
真諦	42, 184	セロイコス Seleukos (王)....	
真諦門	103	23-4, 32-3
信度 Sind (國).....	83, 196	善見 (高僧).....	84
真如 ... 64, 80, 93-7, 144, 148-50, 174		鄒善 (國).....	131
真如緣起論 ... 91, 94, 134, 139, 174		栴陀耆利柯 skt. Caṇḍagirika	
真如門	92-5	(典獄).....	37
新羅 (國).....	199	栴陀掘多 skt. Candragupta	
真臘 (國).....	200	(王).....	23-6, 32-3
推古天皇	199	栴陀羅 skt. Caṇḍāla.....	35
スカンダグプタ skt. Skandha-			

瞻波 skt. p. Campā (城).....	29	大雲園 skt. Mahā-Meghavana	
占波 (國).....	200	58
宰祿勤那 skt. Srughna (國)...	114	大圓鏡智	151
僧友 skt. Saṅghamitra (師子國		大迦葉 skt. Mahā-Kāśyapa	
の僧).....	117	(佛弟子).....	6-8, 11, 40
僧迦施 skt. Saṅkāśya (國)...	130	大衆	11-12
僧伽蜜多 p. Saṅghamitta....		大衆部 (宗派).....	11-2, 41-2, 46-7, 49, 66, 75-7, 79-80, 119, 173, 181
.....	56, 58	大乘廣百論釋論 (書名).....	172
相分	178-9	大乘掌珍論 (書名).....	182
相無自性性	147	大智度論 (書名).....	101-2, 105, 110
相無性	147	大天 skt. Mahādeva (高僧)....	
雜集藏	11	41-2, 45, 54
雜集論 (書名).....	167	大菩提寺	171-81, 197
雜藏	10	大林	16, 19
即蘊の我	78	提婆 skt. p. Deva (論師).....	
俗諦	184	2-3, 111-6, 180
俗諦門	103	提婆達多 skt. Devadatta (佛	
		陀の反對者).....	7
		ダシヤラタ Daśaratha (王)...	
		56-60
		ターラナータ Tāranātha(著者)	
		86
		達羅毗荼 skt. Drāviḍa (國)...	
		169, 196
		斷常の妄見	166
		智光 skt. Jñānaprabha (論師)	
		3, 189
		中觀宗	166
		中道實相	107
		中論 (書名).....	101-3, 105, 109, 116

タ 行

多摩梨帝 skt. Tāmralipti (港)	
.....	130
多聞部 (宗派).....	75, 77, 119
他受用身	153
他力往生	99
駄那羯磔迦 skt. Dhanakāṭaka	
(國).....	181-2
陀羅尼	11
對境	148-9
第一義諦	122-3
第一結集	6
第二結集	13

重閣講堂 (寺名)..... 16, 19
 擇滅 71
 超日 *skt.* Vikramāditya (王)
 137
 チョーラ Chola (種族)..... 52
 陳那 *skt.* Dignāga (論師)..... 3, 161-4
 帝須 *skt.* Tiṣya, *p.* Tissa
 (王子)..... 29
 — — — (高僧).....
 50-1, 54, 57-8
 — — — (師子國王).....
 116-7
 天武天皇 199
 吐蕃 (國)..... 200
 德慧 *skt.* Guṇamati (論師)..... 167
 德叉尸羅 *skt.* Takṣaśilā (城)
 26-7, 30
 犢子部 (宗派)..... 75, 78
 トラマーナ Toramāna (王)..... 158
 トレミー Ptolemy (王)..... 52-3
 トンミ、サンボータ Tonmi
 Sambhota (吐蕃の學者)..... 200
 曇無德 *p.* Dhamma-rakkhita
 (高僧)..... 55

十行

那先 *skt.* Nāgasena (論師)..... 63
 那爛陀 *skt. p.* Nālanda (地名)
 133, 190-2
 那爛陀寺
 166, 170-1, 186-7, 190-1, 197

難陀 *skt.* Nanda (論師)..... 163
 難陀朝 23
 ナンダナ園 *skt.* Nandana-vana
 58
 ナーガリー Nāgari (地名)..... 62
 ナルマダー Narmadā (河)..... 194
 二諦説 (詞梨跋摩の)..... 122
 二分説 167-8
 二門 92
 尼拘律 *p.* Nigrodha (僧)..... 35-8
 尼乾子外道 50
 尼連禪 *skt.* Nairāṅjanā (河)
 188
 涅槃 95-7, 108-9, 123, 126, 150-1

ハ行

波婆 *skt. p.* Pāvā (城)..... 6
 婆薩婆伽眉 *p.* Vāsabhagāmi
 (高僧)..... 19
 婆師婆 *skt.* Vāṣpa (僧)..... 11
 婆那婆私 *p.* Vanavāsī (國)..... 54-5
 婆羅奈斯 *skt.* Vārāṅasī (城)..... 40
 倍訶羅 *skt.* Vaihāra (山)..... 8
 吠舍離 *skt.* Vaiśālī (城).....
 13, 19-20
 薄拘羅 (僧名)..... 40
 八識 140
 八迷 104
 八不 104
 跋耆 *p.* Vajji (種族)..... 13
 跋那 Bannu (國)..... 130

鉢羅耶伽 *skt.* Prayāga (國)..... 114
 拔陀沙 *p.* Bhaddasāla (高僧)
 57
 伐臘毗 *skt.* Valabhi (國)..... 166
 バクトリヤ Baktria (國)..... 61
 バビロン府 Babylon..... 23-4
 バルカツチャ *p.* Bharu-
 kaccha (港)..... 27
 ハルシヤ *skt.* Harṣa (王)..... 193
 パロパニサダイ Paropanisadai
 (州)..... 33
 パーンデイヤ *skt.* Pāṇḍya (種
 族)..... 52
 般若經 (書名)..... 101
 般若燈論釋 (書名)..... 182
 非有非空の中道 107-8
 非即非離蘊の我 78
 非法十事 14-5
 非擇滅 71
 毗荼 Bhiḍa. (國)..... 130
 毗多輸柯 *skt.* Viḡatāśoka (王子)
 29
 毗奈耶毗婆沙 (書名)..... 85
 比隣持 *skt.* Viriñci (無著世親の
 母)..... 132
 比隣持子 *skt.* Viriñcivatsa (世親
 の弟)..... 132
 轉索迦 *skt.* Viśoka (城)..... 171
 緬甸 (國)..... 4, 200
 ビテニカ Pitenika (種族)..... 52
 ヒマカドフイセス Hima Kad-

phises 83
 百法..... 139, 174
 百法明門論 (書名)..... 139, 174
 百論 (書名)..... 114
 百論釋 (書名)..... 174
 平等性..... 94
 平等性智..... 151-2
 賓伽羅 *skt.* Piṅgala (論師)..... 166
 賓頭沙羅 *skt.* Bindusāra (王)
 24-5, 27-30
 賓頭盧 *skt. p.* Piṅḡola (小乘家)
 132
 ヒンドウクーシユ Hindukush
 (山系)..... 33
 不相應行法..... 70-1, 143-4
 父母生身..... 110
 扶南 (國)..... 220
 補羅稽舍 *skt.* Pulikesin(王)..... 194
 布路沙城 *skt.* Puruṣapura.....
 48, 91, 132, 136-7
 富婁那 *skt.* Pūrṇa (佛弟子)..... 11
 プリハツドラタ *skt.* Bṛhadra-
 tha (王) 60-1
 プシユヤミトラ *skt.* Puṣyamit-
 ra (王)..... 60-1
 プリンド Pulinda (種族)..... 52
 佛音 *skt.* Buddhaghoṣa (三藏)
 52
 佛性論 (書名)..... 174
 分別明 (清辨に同じ)..... 182
 遍計所執性 144

變化身..... 153-4
 菩薩本業瓔珞經..... 104
 菩提 *skt.* Bodhi 150-1
 ボージャ Bhoja (種族)..... 52
 報身..... 97
 報身 (佛陀の)..... 153-4
 報身佛..... 48
 法空..... 121
 法顯 (三藏)..... 129-30
 法興王 (新羅國王)..... 199
 法使 *skt.* Dharmadāsa. (高僧)
 170
 法性身..... 110
 法上部..... 75, 79
 法身..... 153-4
 法身 (佛陀の)..... 153-4
 法身佛..... 110
 法藏部 (宗派)..... 75, 80
 法體..... 46
 法體恆有..... 72
 北山住部 (宗派)..... 75, 77
 發智論 (書名)..... 66-7
 本覺..... 66, 174
 本新合用説..... 169-176
 本來清淨涅槃..... 150

マ 行

摩訶曇無德 *p.* Mahā Dham-
 ma-rakkhita (高僧)..... 55
 摩訶提婆 *skt. p.* Mahādeva
 (大天に同じ)..... 54

摩訶毗訶羅 *skt. p.* Mahāvihā-
 ra (本山)..... 130, 156, 192
 摩訶刺佉 *p.* Mahāratta (國)
 55, 161, 194
 摩訶勒葉多 *p.* Mahā Rakk-
 hita (高僧)..... 55
 摩揭陀 *skt. p.* Magadha (國)
 7, 90, 113-4, 130, 159, 181, 187, 196
 摩晒陀 *p.* Mahinda (高僧).....
 55, -6, 57-8
 摩醯娑漫陀羅 *p.* Mahisaman-
 dala (國)..... 54-5
 摩頭羅 *skt. p.* Mathurā (城)..
 18, 39, 50, 130
 摩羅難陀 (胡僧)..... 198
 摩臘婆* *skt.* Mālava (國)..... 196
 末示摩 *p.* Majjhima (高僧)..... 55
 末闍提 *p.* Majjhantika (高僧).. 54
 末那識..... 140-2, 176
 末羅遊 (國)..... 200
 秣羅矩吒 *skt.* Malakūṭa (國).. 57
 マデイヤミカー *skt.* Madhya-
 mikā (地名)..... 62
 マガス Magas (王) 52-4
 マハーナデーー Mahānadi..
 (河)..... 34
 彌蘭 *p.* Milinda (王)..... 62-3
 彌勒 *skt.* Maitreya (菩薩).....
 133-4, 182
 密林山部 (宗派)..... 75, 79
 妙觀察智..... 150-1

ミツサカ *p.* Missaka (山)..... 57
 ミヒラクラ *skt.* Mihirakula..
 (王)..... 158-9
 無畏 *skt.* Abhaya (王)..... 117
 無畏山 *skt.* Abhayagiri (本山)
 117, 130, 156, 192
 無爲法..... 47, 70-1, 80, 141
 無我..... 68, 72
 無著 *skt.* Asanga (論師) ...3, 132-
 3, 135-7, 140, 142, 149, 154, 161, 180-1
 無性 (論師)..... 167
 無住處涅槃..... 150-1
 無表色..... 70-1
 無餘涅槃..... 150
 無量壽經優波提舍 (書名)..... 139
 無漏識..... 151-2
 馬鳴 *skt.* Aśvaghōṣa (論師)..
 2, 84, 89, 92, 97-8
 目連 (佛弟子)..... 40, 80
 目連子帝須 (高僧)..... 50, 54, 57

ヤ 行

耶舍 *skt.* Yaśa 高僧 16-9
 ヤシヨダルマン *skt.* Yaśo-
 dharman (王)..... 159
 瑜伽師地論 (書名)..... 133-4, 140
 瑜伽宗..... 166
 瑜伽論 (瑜伽師地論の略稱).... 187-9
 臾那世界 *p.* Yonaloka (國).... 55
 唯識三十論 (書名)..... 173-4
 唯識三十論頌 (書名)..... 140

唯識二十論 (書名)..... 173
 唯識論 (書名)..... 138-9, 187-9
 唯心論..... 134

ラ 行

羅夷 Rohistāna (國)..... 130
 羅睺羅 *skt. p.* Rāhula(佛子).... 78
 —— (論師)..... 166
 來去の妄見..... 106
 ラージプターナ Rājputāna
 (地名)..... 62
 賴耶緣起..... 139
 賴耶緣起論..... 134, 142, 161, 163,
 172-4, 180, 183, 186-7, 190
 羅羅 Lala (國)..... 167
 嵐毗尼 *skt.* Lumbini (園)..... 39
 離蘊の我..... 78
 離婆多 *skt. p.* Revata (高僧).... 19
 龍軍 *skt. p.* Nāgasena (論師).
 61, 63-4
 龍樹 *skt.* Nāgārjuna (論師)....
 2, 3, 100-3, 105,
 108, 110-2, 163, 165-6, 180-1, 183, 189
 力日 *skt.* Bālāditya (王)..... 159
 律藏..... 11
 流轉門..... 96
 歷山 Alexander (大王)..... 23, 32
 —— (エピロス國王)..... 52-3
 朗迦成 (國)..... 200
 弄贊 Srontsan (王)..... 200
 樓波 *skt.* Rūpana (高僧)..... 63

六境.....	68-9, 141	論藏.....	10, 12
六根.....	68-9		
六識.....	68-9, 140, 143	ワ 行	
鹿苑 (佛蹟).....	40	惑.....	69
勒棄多 <i>p.</i> Rakkhita (高僧)...	54	キダルバ <i>skt.</i> Vidarbha (國).....	100

大正四年九月十日印刷
大正四年九月十八日發行

印度佛教史
定價金壹圓

著者 堀謙德



發行者 前川又三郎
東京市京橋區中橋廣小路六番地

印刷者 朝岡平藏
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

製本所 植木瀧藏
東京市京橋區松屋町三丁目十番地



發兌元

東京市京橋區中橋廣小路六番地
振替貯金東京四一〇九電話京橋三七七

前川文榮閣

前川文榮閣

宮崎虎之助君著	豫言者	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著
我が新福音	日蓮論	世界三聖論	戰争哲學	最新一元哲學	人生哲學	宇宙觀	釋迦觀	人生	增訂人觀	增訂人觀	釋迦論	釋迦論	釋迦論
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
定價六十四錢	定價六十六錢	定價六十六錢	定價六十四錢	定價八十五錢	定價五十七錢	定價五十五錢	定價五十五錢	定價七十五錢	定價七十五錢	定價七十五錢	定價八十錢	定價八十錢	定價八十錢

圖書略目錄

前川文榮閣出版發行圖書目錄

釋迦の史傳として最も完全無缺なる、又考證該博なる本書は、發賣以來好評噴々として、版を重ねる十九、印刷部數亦數萬を超へ、爲に紙型磨滅せるに依り、茲に新研究の大増補をなし、五百餘頁の大冊となす、解説西域記の完成と相俟つて、正に、本書は斯界を照らす二大名著と言ふも敢て過言にはあらざるなり。

增訂釋迦牟尼傳

文科大學教授 井上哲次郎先生 合著
文科大學講師 堀謙德先生

菊大判全一冊
定價金貳圓五拾錢
郵税金拾八錢

前川文榮閣

小野藤太先生著	梅澤和軒先生著	文學博士井上哲次郎先生著	文學博士村上專精先生述	ミルトン氏原著	高橋五郎先生譯	文學博士前田慧雲先生著	舟橋水哉先生著	トルストイ伯爵著	加藤直士譯	及川泰次著 藤島武二畫	長原止水畫 赤松麟作畫	文學博士村上專精先生監修	文學博士前田慧雲先生修	田中智學序	山崎紫紅君著						
弘法大師傳	西行法師傳	菩提達磨傳	教理と實踐	失樂園	大乘佛教史論	小乘佛教史論	我宗	地理讀本	親鸞聖人全集	法華經物語	病問答	回光錄	新約物語	舊約物語	佛陀語	理想の陀人	支那思想史	鷗心錄	靈海新潮	基督教安心論	
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全二冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
郵定價金四十五錢	郵定價金八十錢	郵定價金七十五錢	郵定價金八十五錢	郵定價金七十五錢	郵定價金七十五錢	郵定價金五十錢	郵定價金五十錢	郵定價金六十錢	郵定價金六十錢	郵定價金六十錢	郵定價金四十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢

圖書略目錄

前川文榮閣

陸軍少將龜岡泰辰校閱	軍事普及會編	網島梁川先生著	網島梁川先生著	中村春雨先生著	中村春雨先生著	神學博士三並良先生譯	安部磯雄君著	山路愛山君著	浩々歌客君著	海老先生著	高太郎先生著
徵兵問答	病問答	回光錄	新約物語	舊約物語	佛陀語	理想の陀人	支那思想史	鷗心錄	靈海新潮	基督教安心論	基督教安心論
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
郵定價金三十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢	郵定價金二十錢

圖書略目錄

前川文榮閣

網島梁川先生著	網島梁川先生著	薄田先生編著	實業俱樂部主筆 藤田日東先生著	宮崎八百吉先生著	田山花袋先生著	高橋五郎先生著	高橋五郎先生著	伊藤銀月先生著	伊藤銀月先生著
我觀錄	病窓雜筆	名家書翰集	實驗立身策	科學宇宙と人生	日本新漫遊案内	心靈萬能論	新哲學の曙光	日本風景新論	日本名勝史蹟
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全二冊
定價金一圓廿錢	定價金一圓十錢	定價金六十五錢	定價金六十五錢	定價金六十錢	定價金一圓十錢	定價金九十錢	定價金一圓十錢	定價金一圓十錢	定價金一圓十錢

圖書目錄

前川文榮閣

女子大學教授 小野鷺堂先生著	女子大學教授 中野鷺堂先生著	宮中御歌所寄人 中野鷺堂先生著	宮中御歌所寄人 中野鷺堂先生著	中野鷺堂先生著	中野鷺堂先生著	中野鷺堂先生著	中野鷺堂先生著	高須五湖先生著	中野鷺堂先生著
新體女子用文	千草の錦	新編手紙	文の手ほどき	古今集詳解	新編書簡文例	新編女子書簡文例	新編女子書簡文例	新編女子書簡文例	不盡廼屋遺稿
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
定價金七十五錢	定價金七十錢	定價金四十五錢	定價金四十五錢	定價金二圓五十錢	定價金六十錢	定價金六十錢	定價金六十錢	定價金五十錢	定價金五十錢

圖書目錄

著名大の界教宗

東京帝國大學文科大學講師
マスタール、オプ、アーツ文學士
堀謙徳先生著

▲最新刊▼

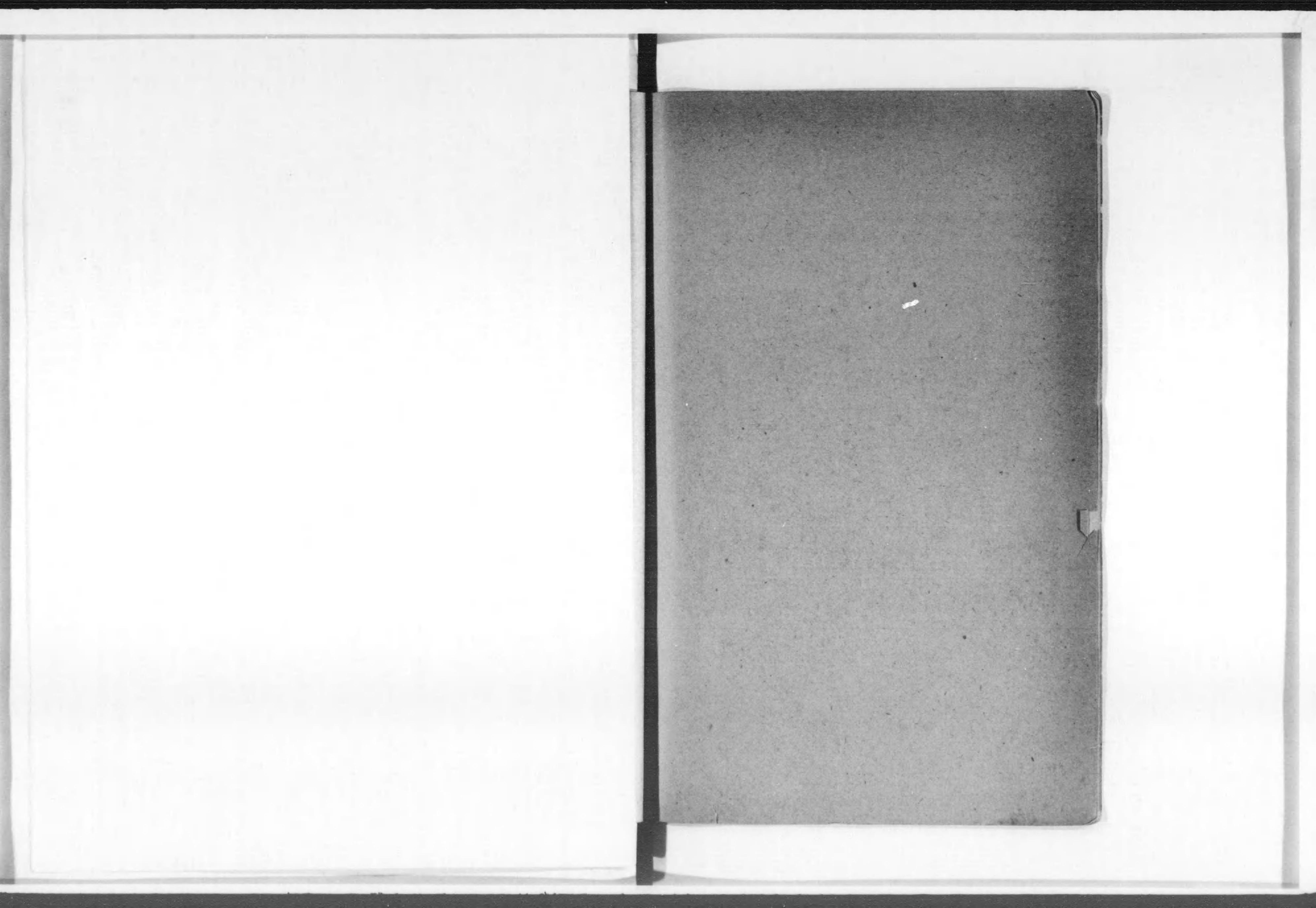
解説西域記

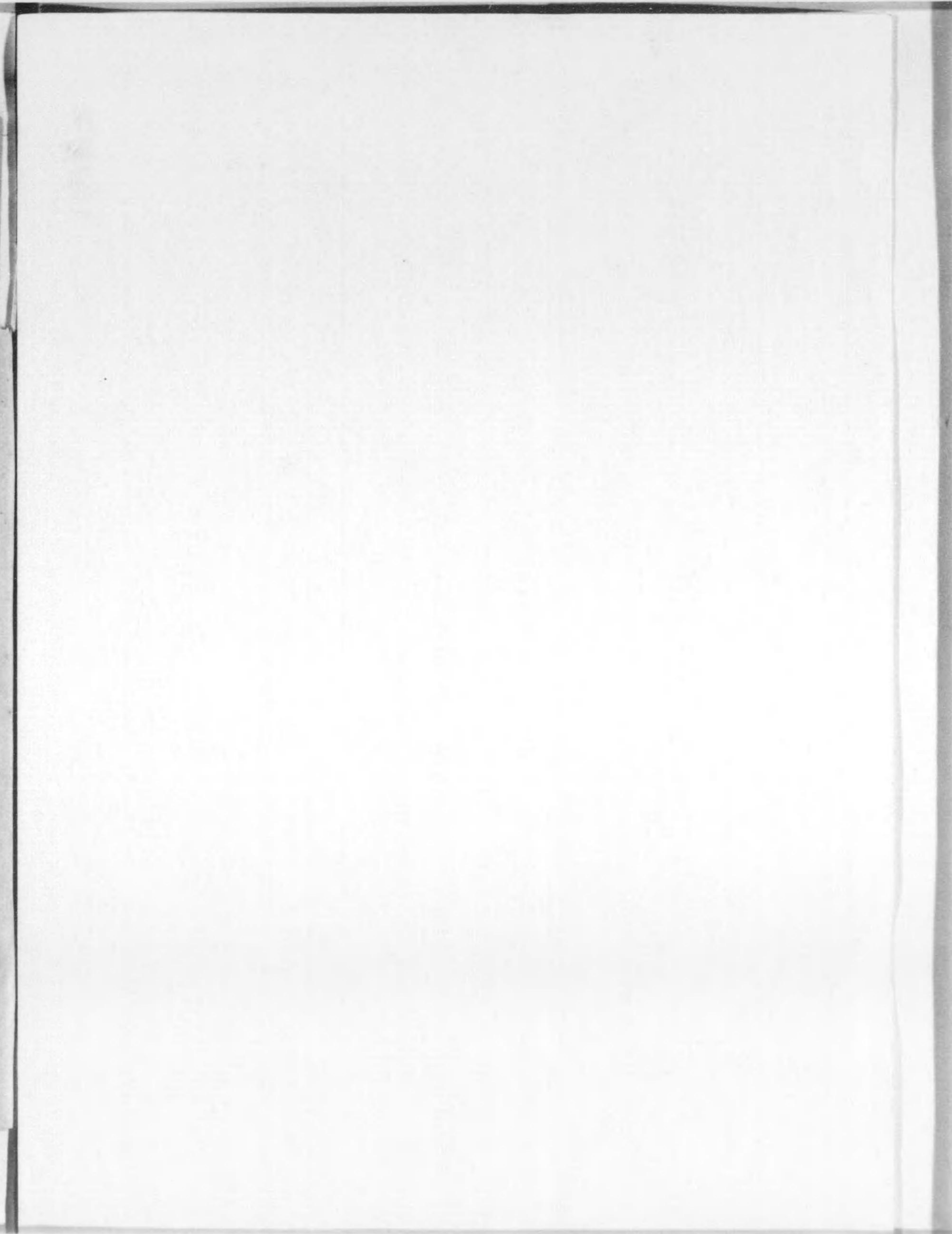
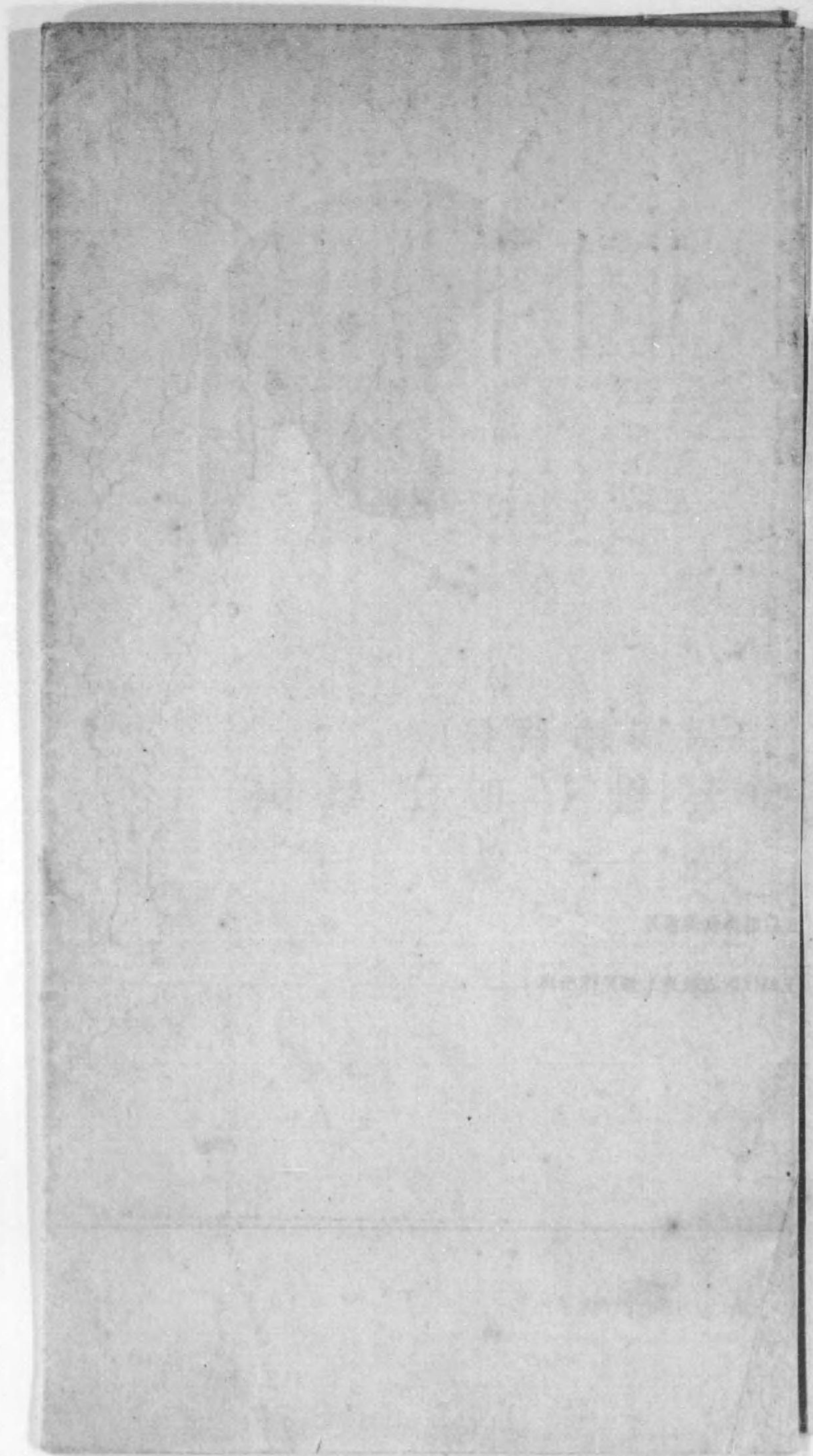
菊大判千三百餘頁
全一冊布綴函入
最新式頗美裝
定價金五圓
内地小包料參拾錢
清、朝、臺、樺、五拾錢

挿入附録

コロタイブ並に寫真版數十葉銅版石版大判地圖及地名表西域研究資料▲漢字及歐文佛語人名國名總索引

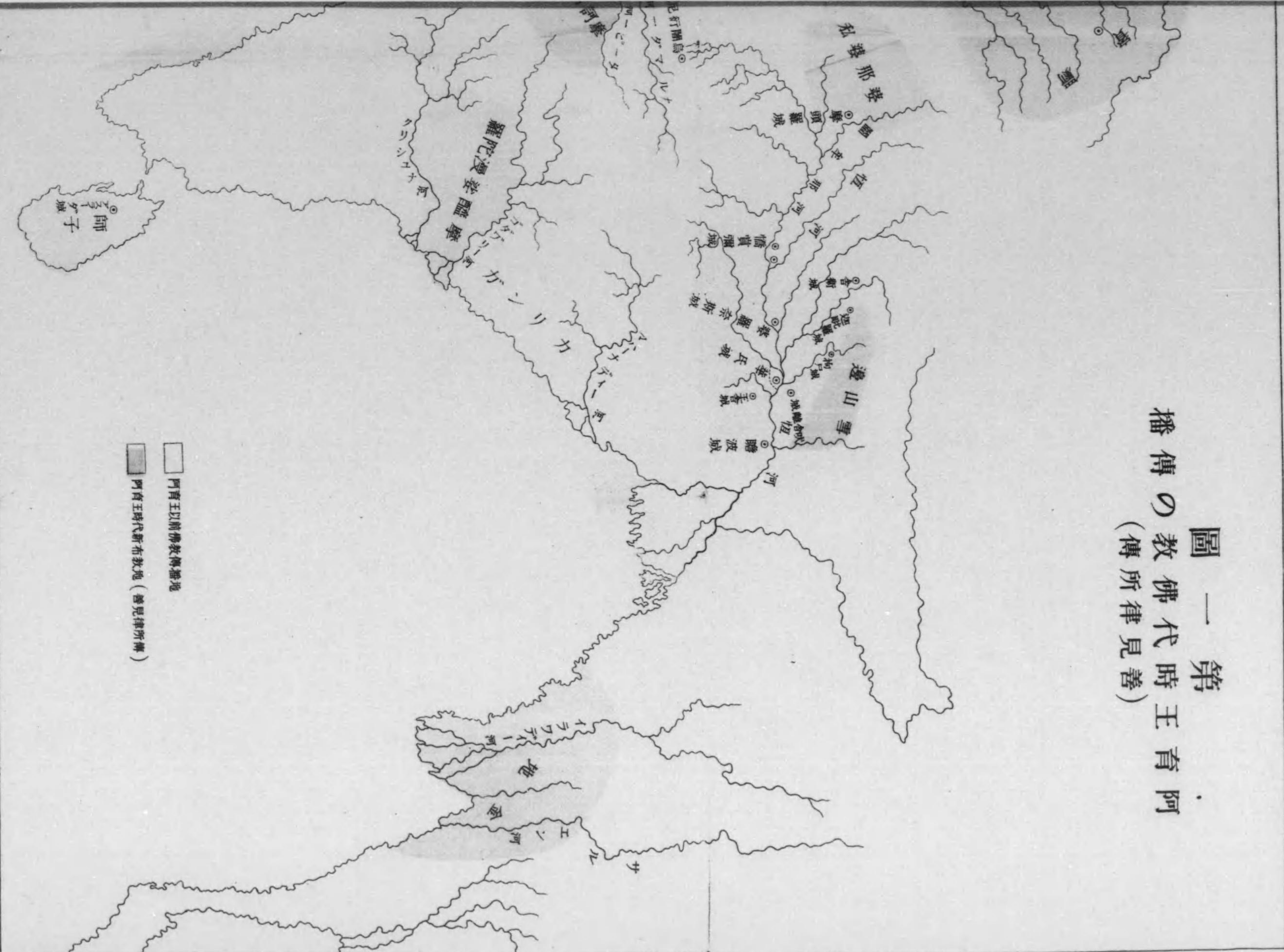
大唐西域記は玄奘三藏が十六年間東洋諸國を遍歴せし見聞録にして、豊富なる學識に依りて、千餘年の教義史實を論述したる名著にして、東洋文化の研究、佛教變遷の調査に從事する者の爲に、一日も缺く可からざる根本寶典として、古來學界に貴重せらるると雖も、意義深遠にして往々難解の歎あり、著者久しく西域記を研究し、先に歐米學府の圖書館に出入し、近くは帝國大學の圖書を涉獵し、十年の勤勞と半生の心血を傾注して、本書の解釋考證を完了し、之を學界に公にす、卷中挿入の精細なる索引、明瞭なる地圖、鮮明なる寫真は、本書をして東洋研究の活辭典、佛教學修の絶好指南車たらしむ、史家、僧侶、學生は勿論、學校圖書館は必ず一本を備へざる可からざる必須の大寶典也。







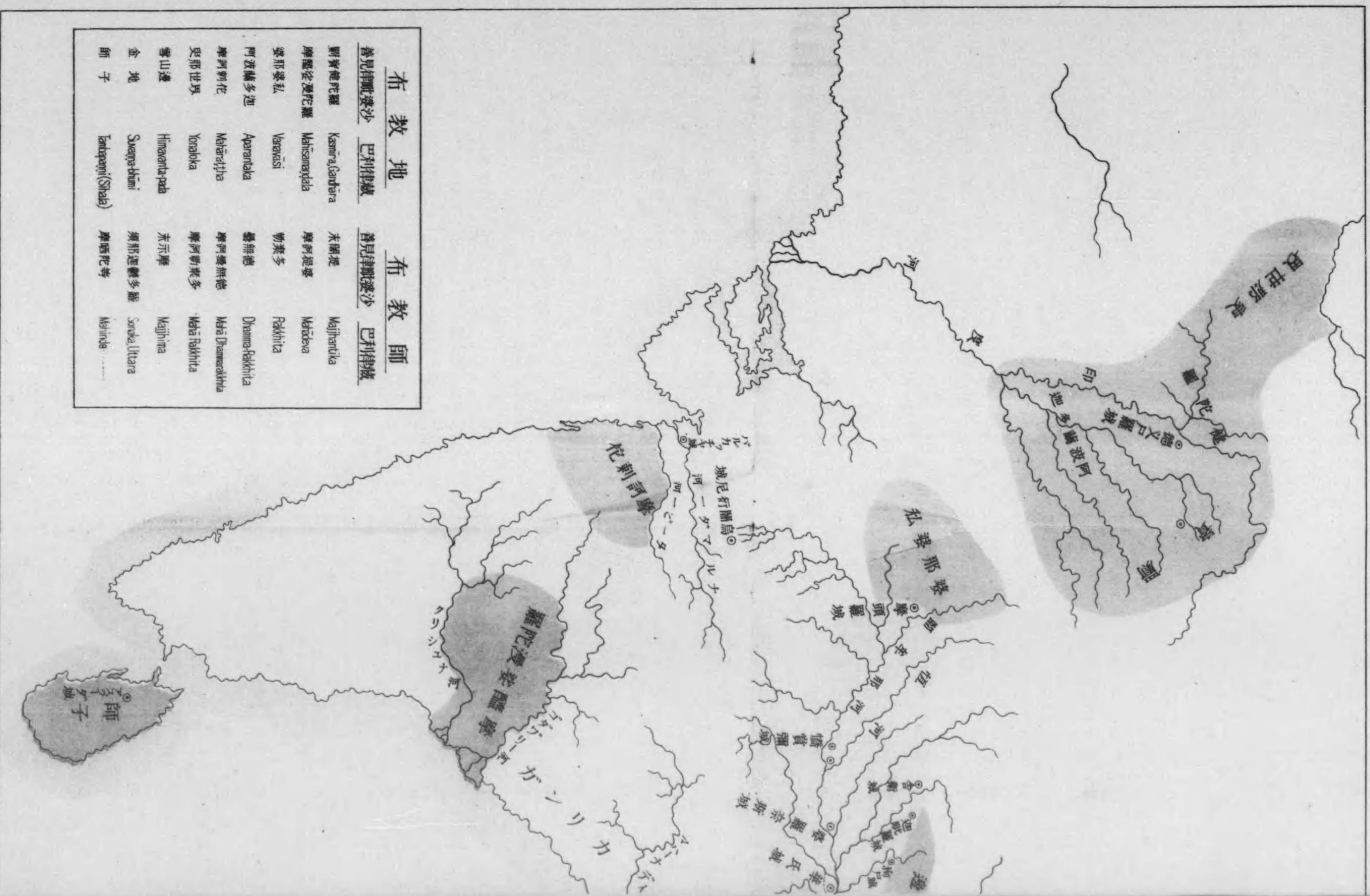
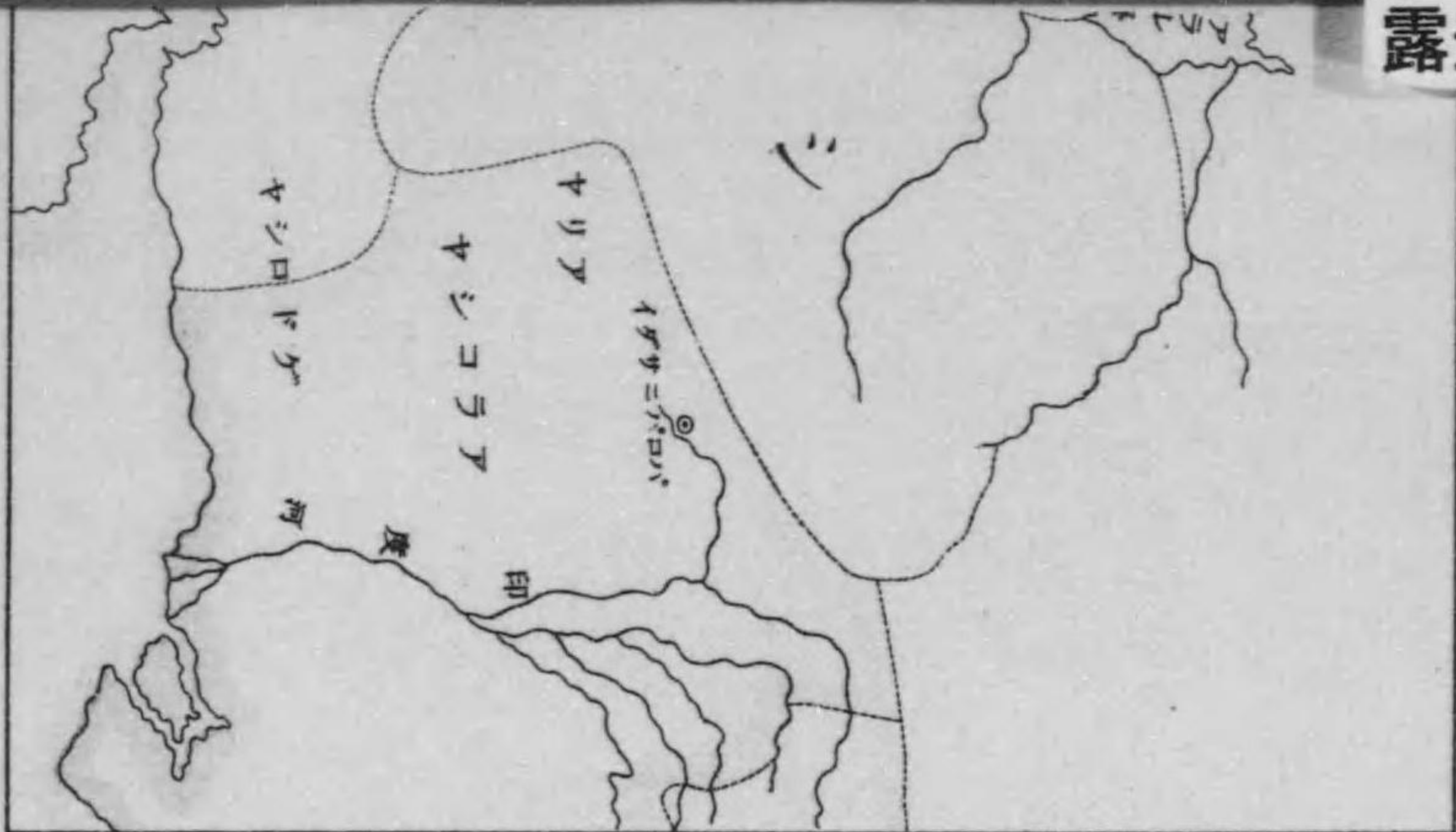
第一圖 阿育王時代佛教傳播圖
(善見律見傳所)



第 阿
王育巖)
其



露光量違いの為重複撮影

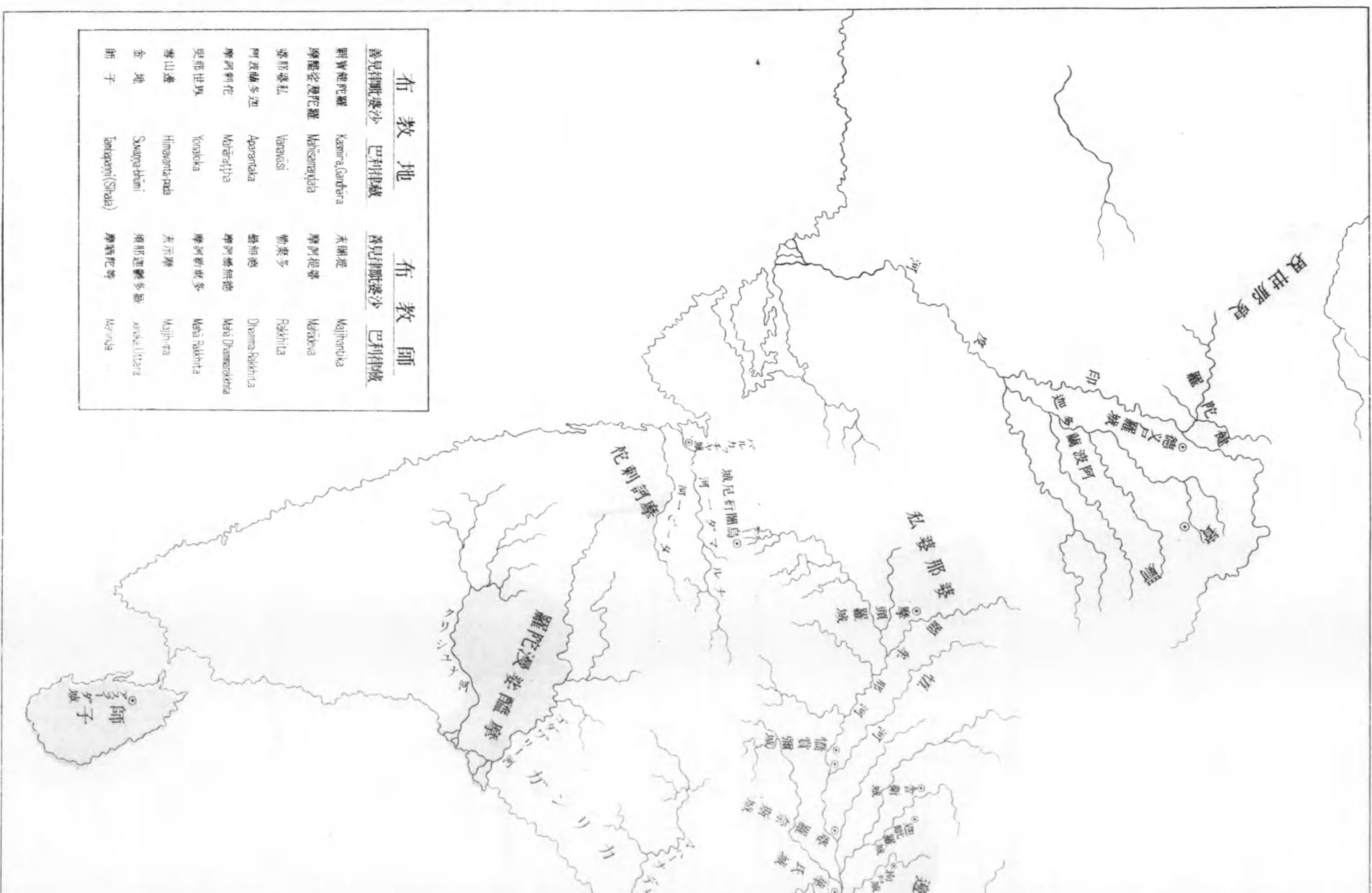
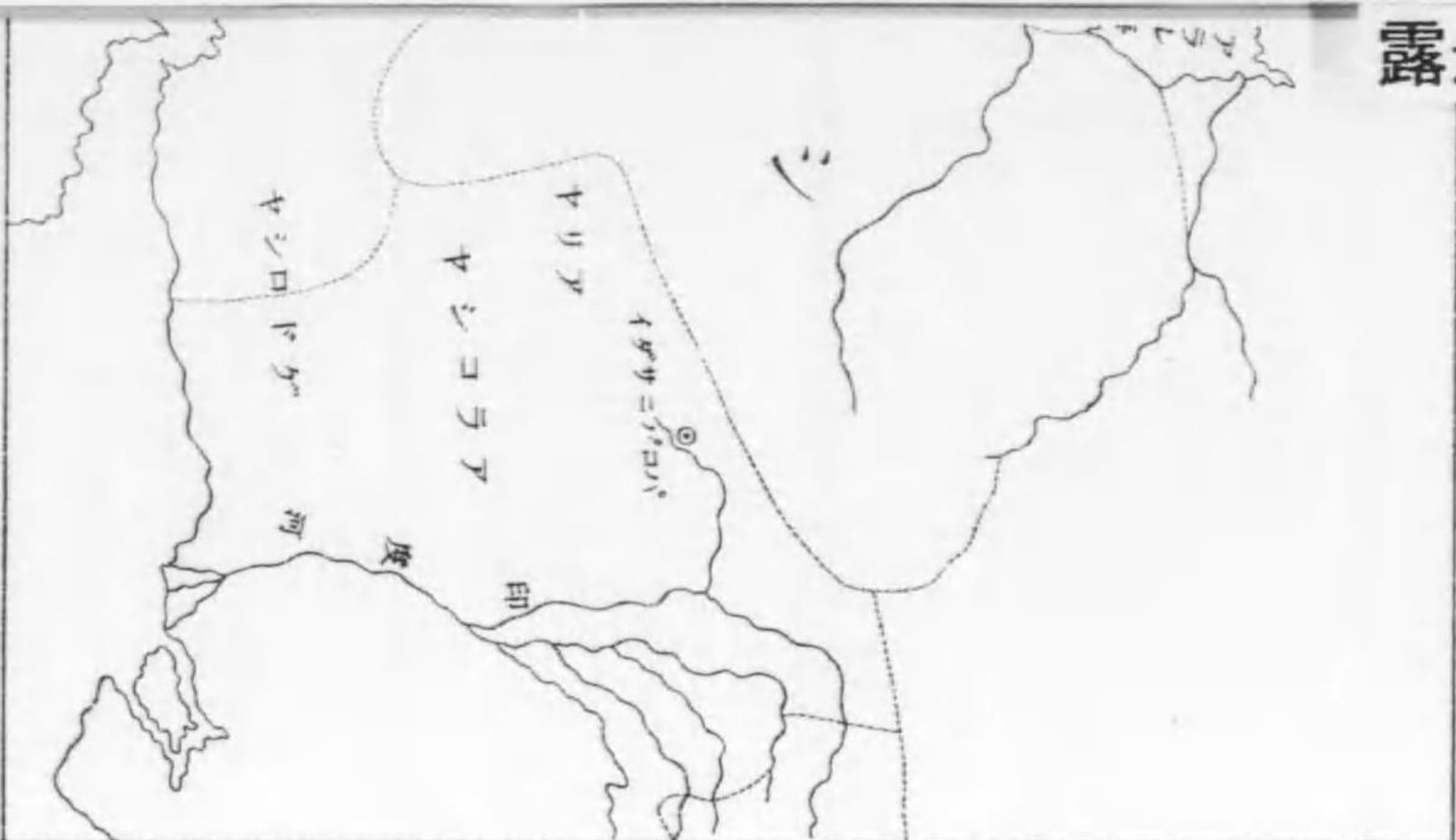


布 教 地		布 教 師	
善見律毗婆沙	巴利律教	善見律毗婆沙	巴利律教
別賢健陀羅	Kasirāḍḍhāra	末闍提	Majjhantika
摩羅婆漫陀羅	Mārasambhala	摩利提婆	Māricha
婆那婆私	Varāṣi	物婆多	Rakkhita
門及曠多迦	Apranaka	曇無德	Dharma-Rakkhita
摩利刺花	Māṣṭhita	摩利刺婆多	Māṣṭhita
受那世界	Yonaka	末示摩	Majjhina
雪山邊	Himavanta-pada	頻那迦樓多羅	Saraha, Uthara
金地	Suvarṇa bhūmi	摩晒化等	Māraṇḍa
師子	Sindhaparvata (Sinhala)		

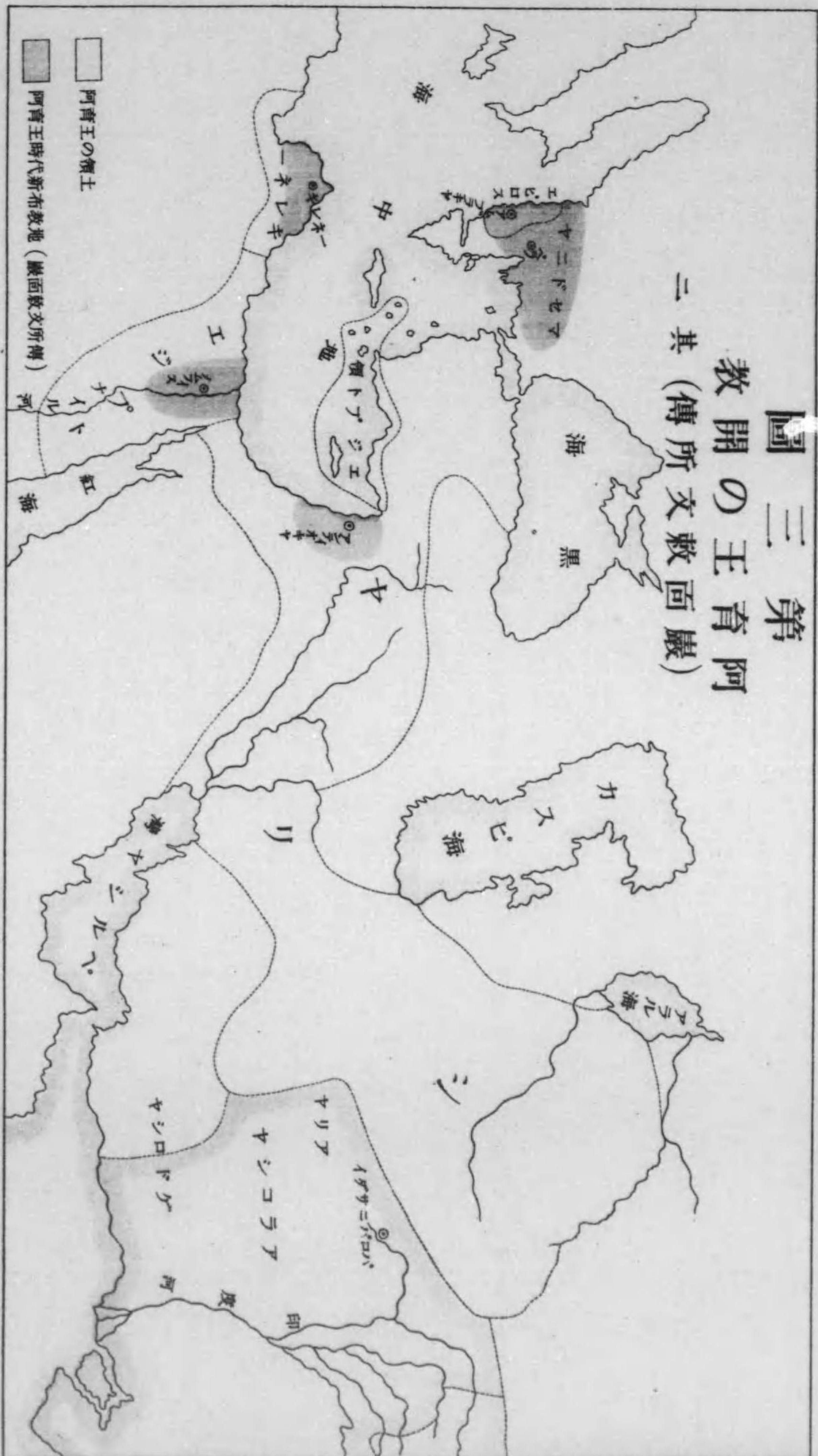
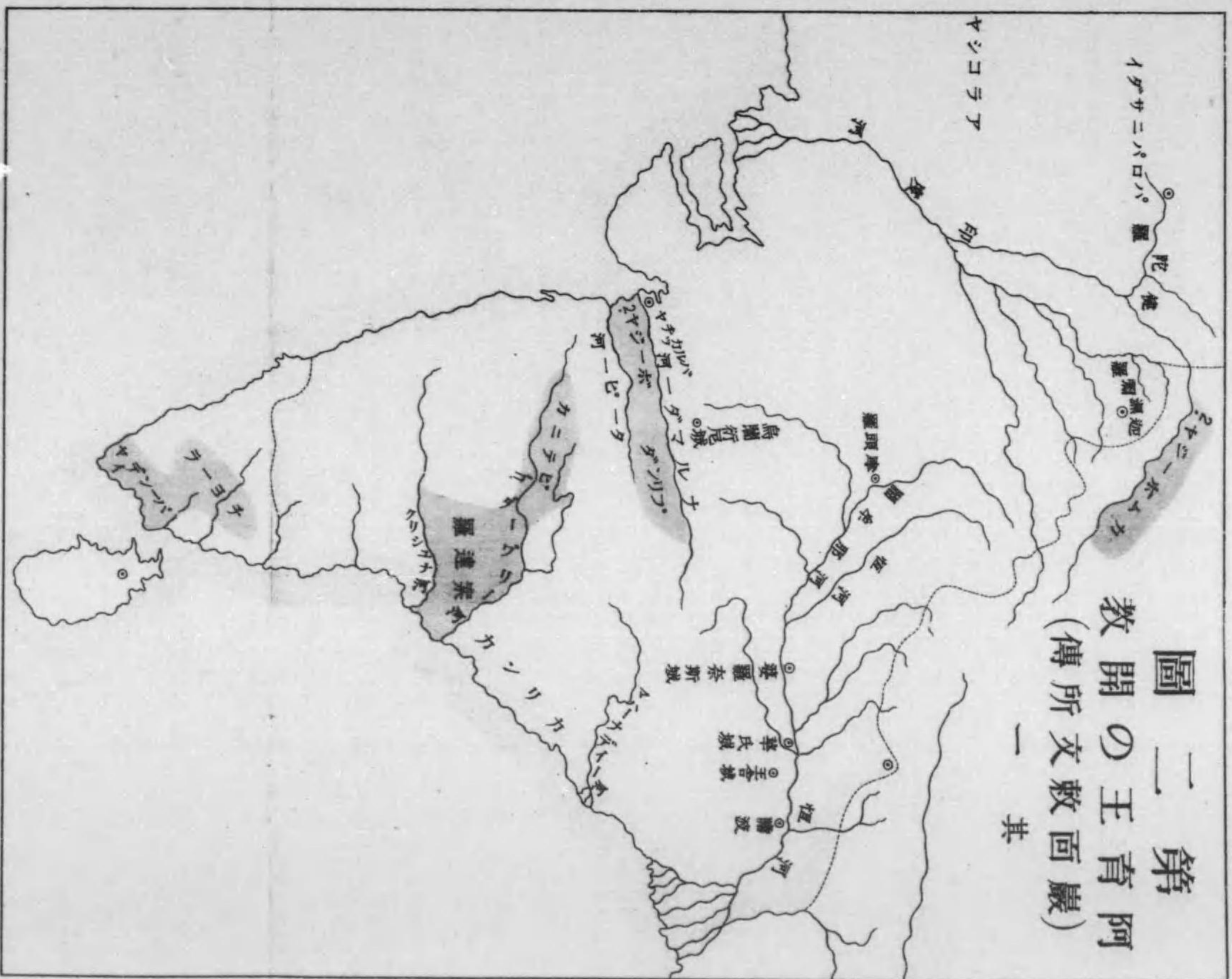
第 阿
王育巖)
其

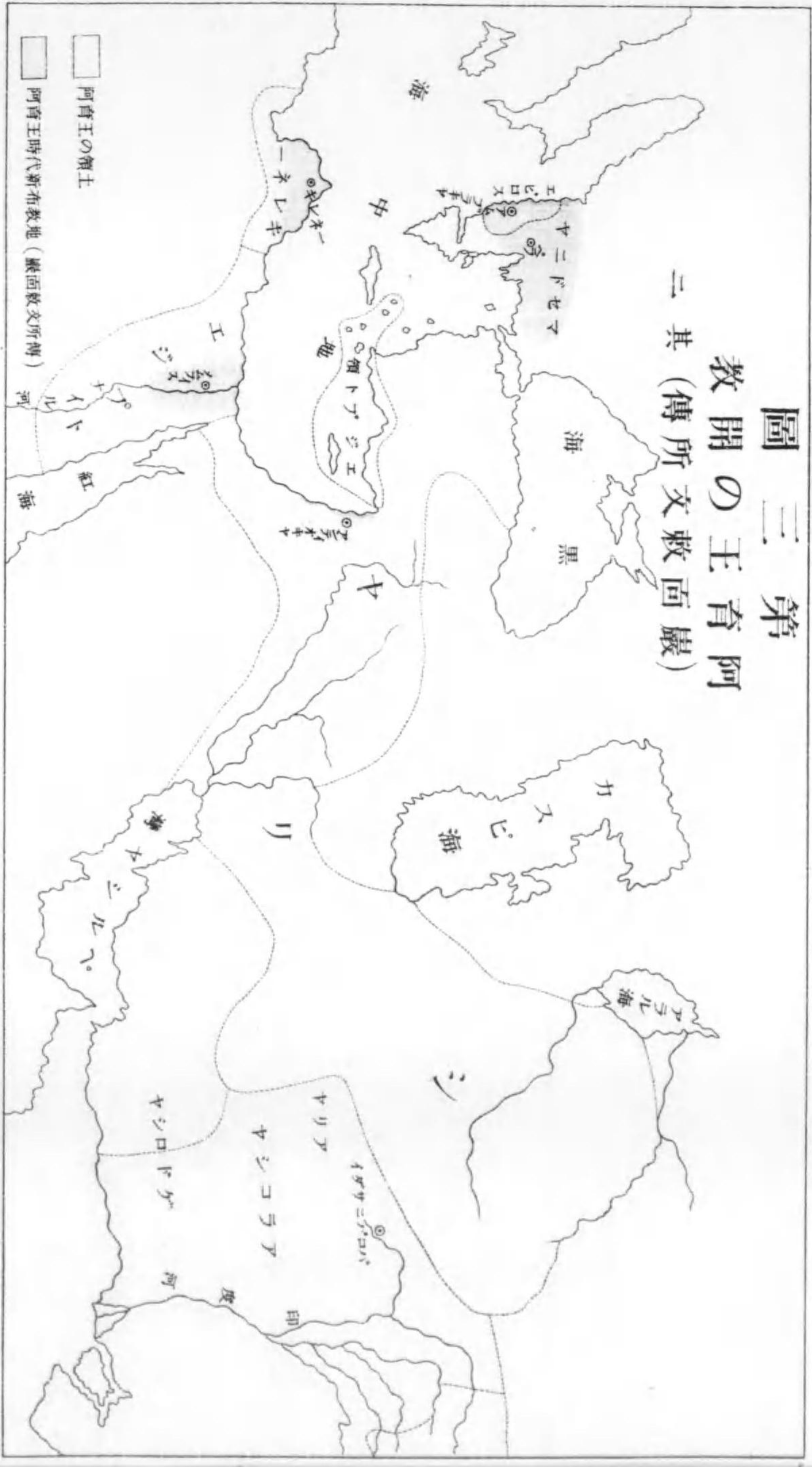
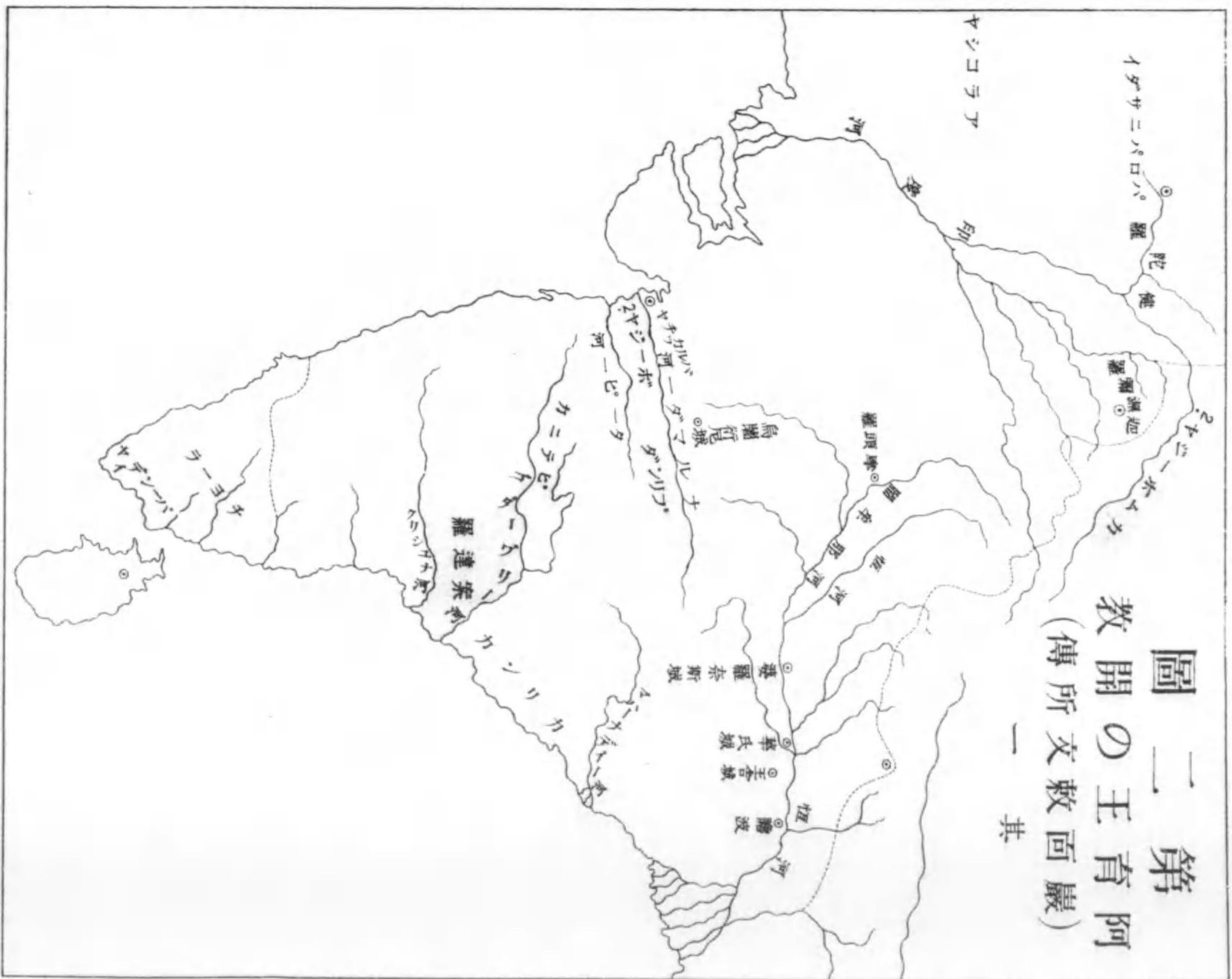


露光量違いの為重複撮影

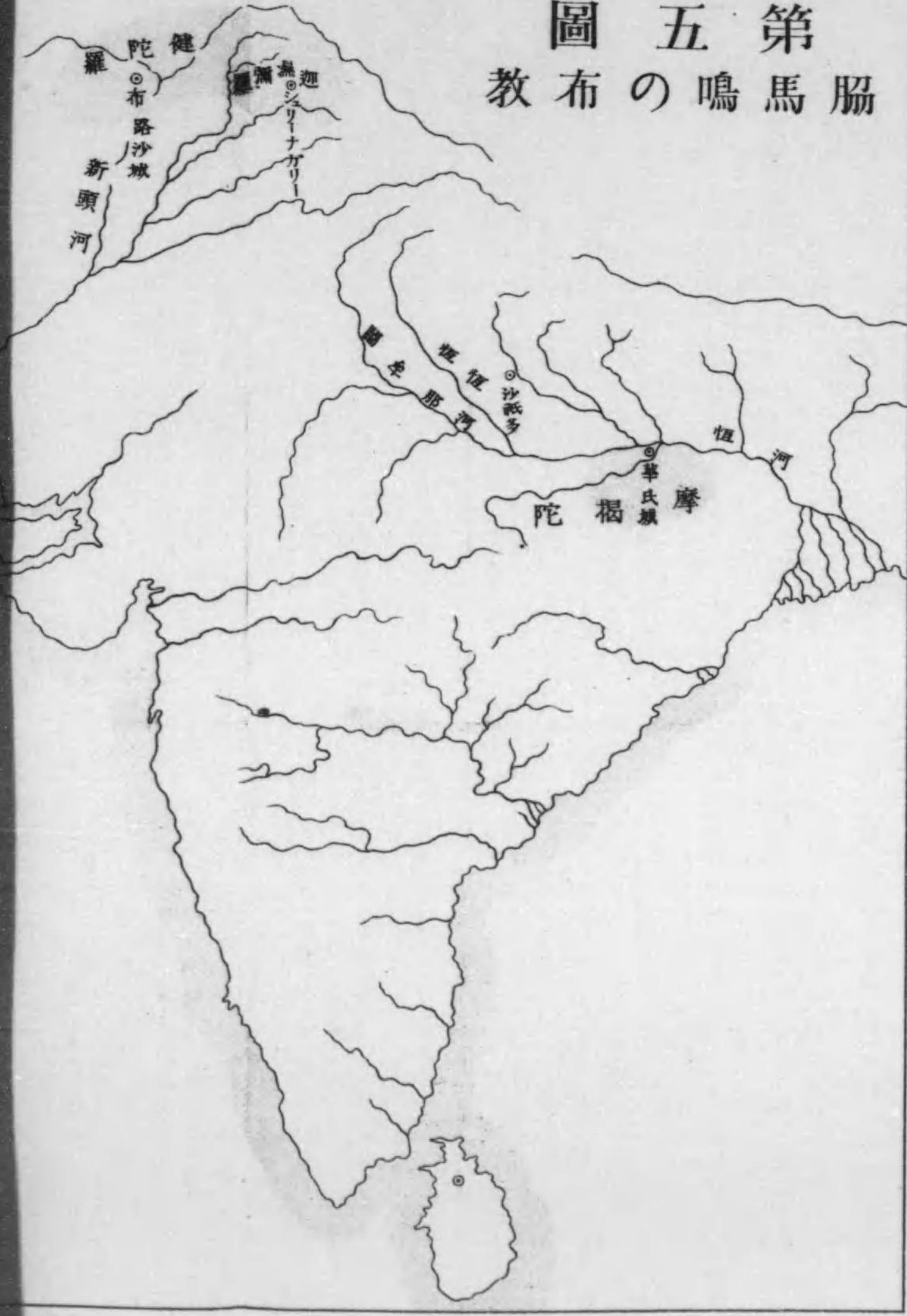


布 教 地		布 教 師	
高見佳那婆沙	巴利律藏	高見佳那婆沙	巴利律藏
割實健陀羅	Kasira, Gaudara	木闍波	Majjhavika
摩羅婆漫陀羅	Mahisarakkita	摩訶提婆	Mahāvika
婆那婆私	Varanasi	勃塞多	Paṭhika
阿瓦薩多迦	Avantika	曇無德	Dama, Rakkita
摩訶剌陀	Maharajita	摩訶漫無德	Mahā Dhamarakkita
與那世男	Yonaka	摩訶刺多	Mahā Sakita
雪山邊	Himavanta-pada	大示摩	Majjhira
金地	Savaga bhumi	須那迦摩多	Sukakittara
師子	Tanavanī (Sinhala)	摩羅陀等	Mahāra





圖五第
教布の鳴馬脇

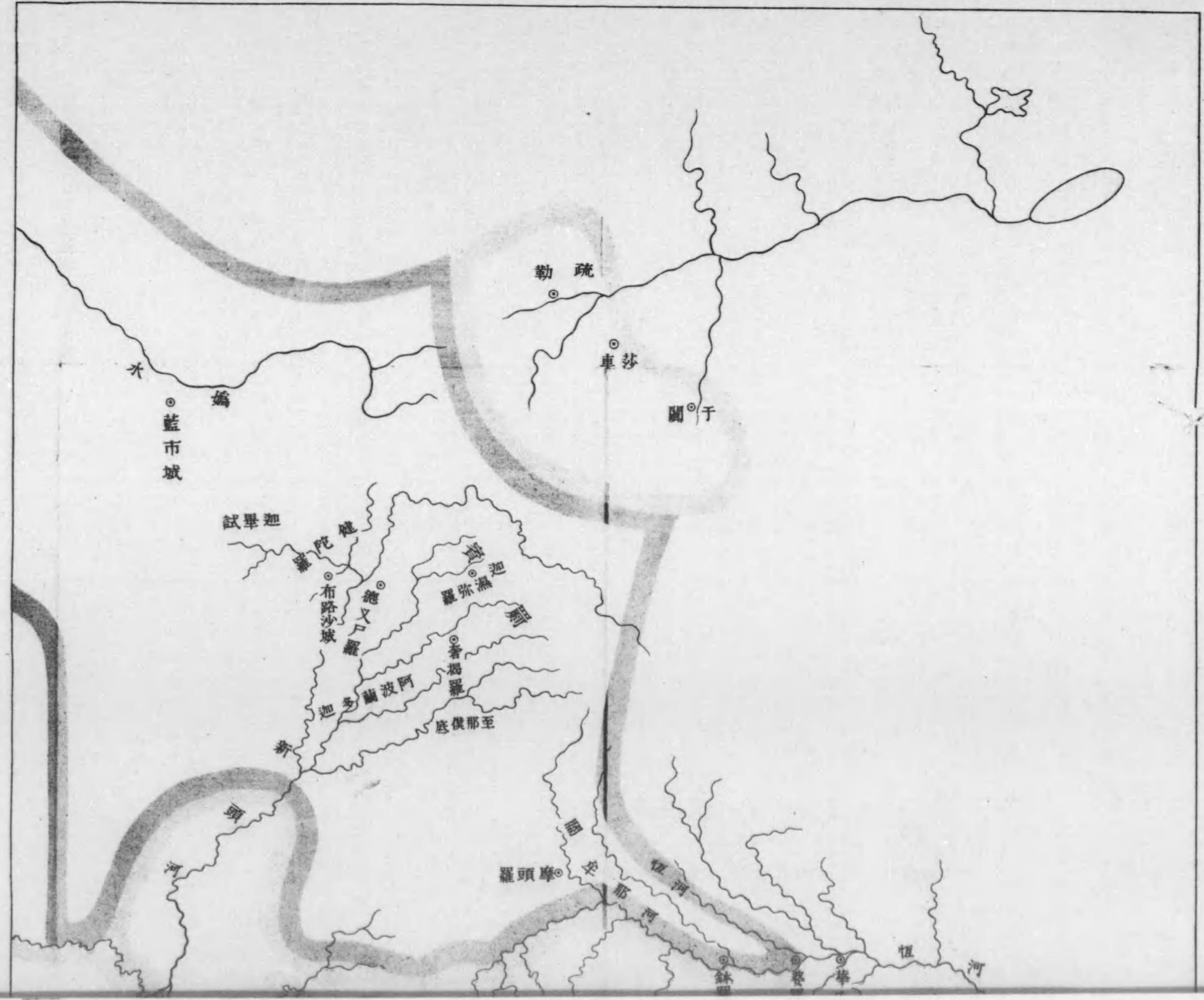


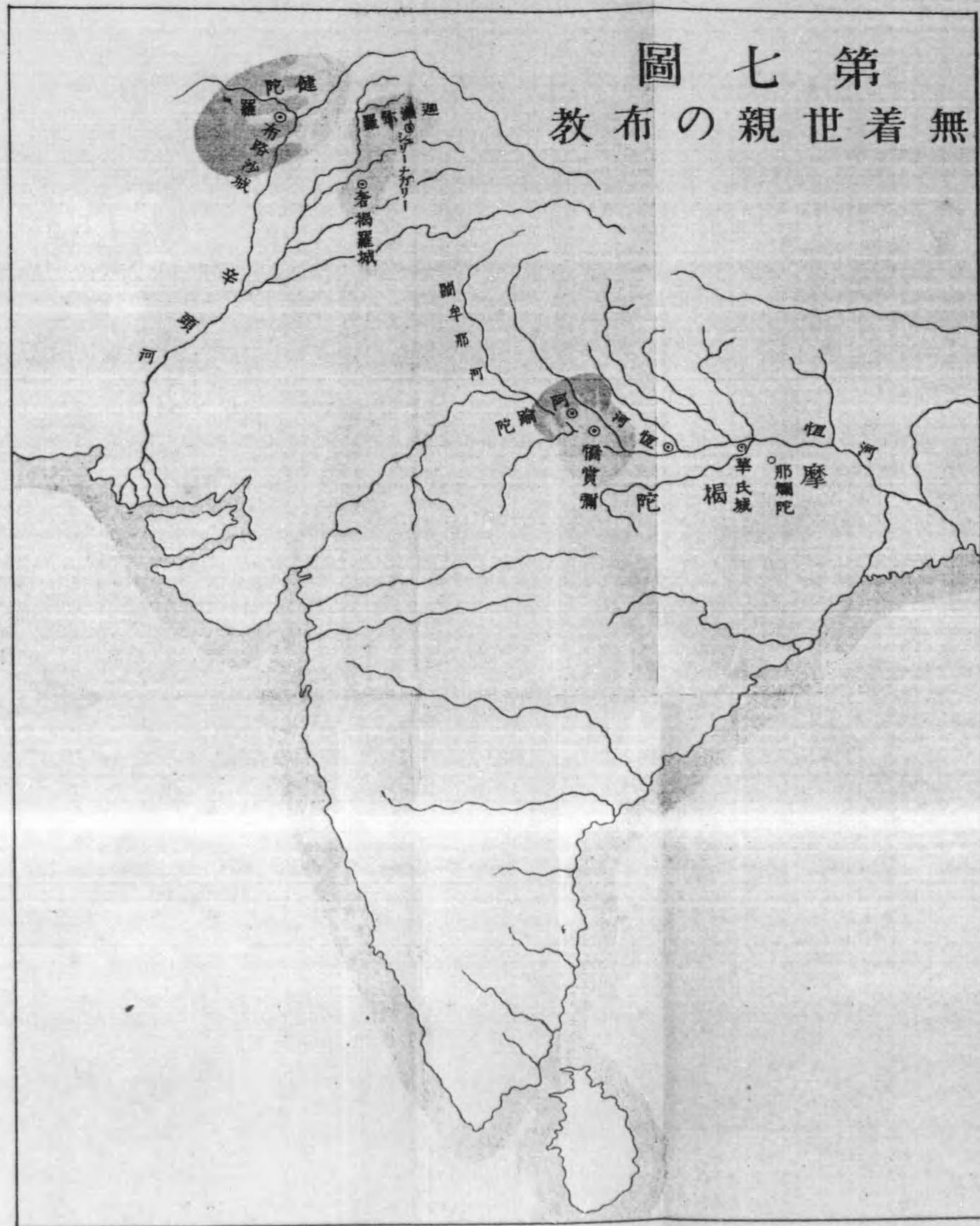
脇馬の布教地

圖六第
教布の波提樹龍



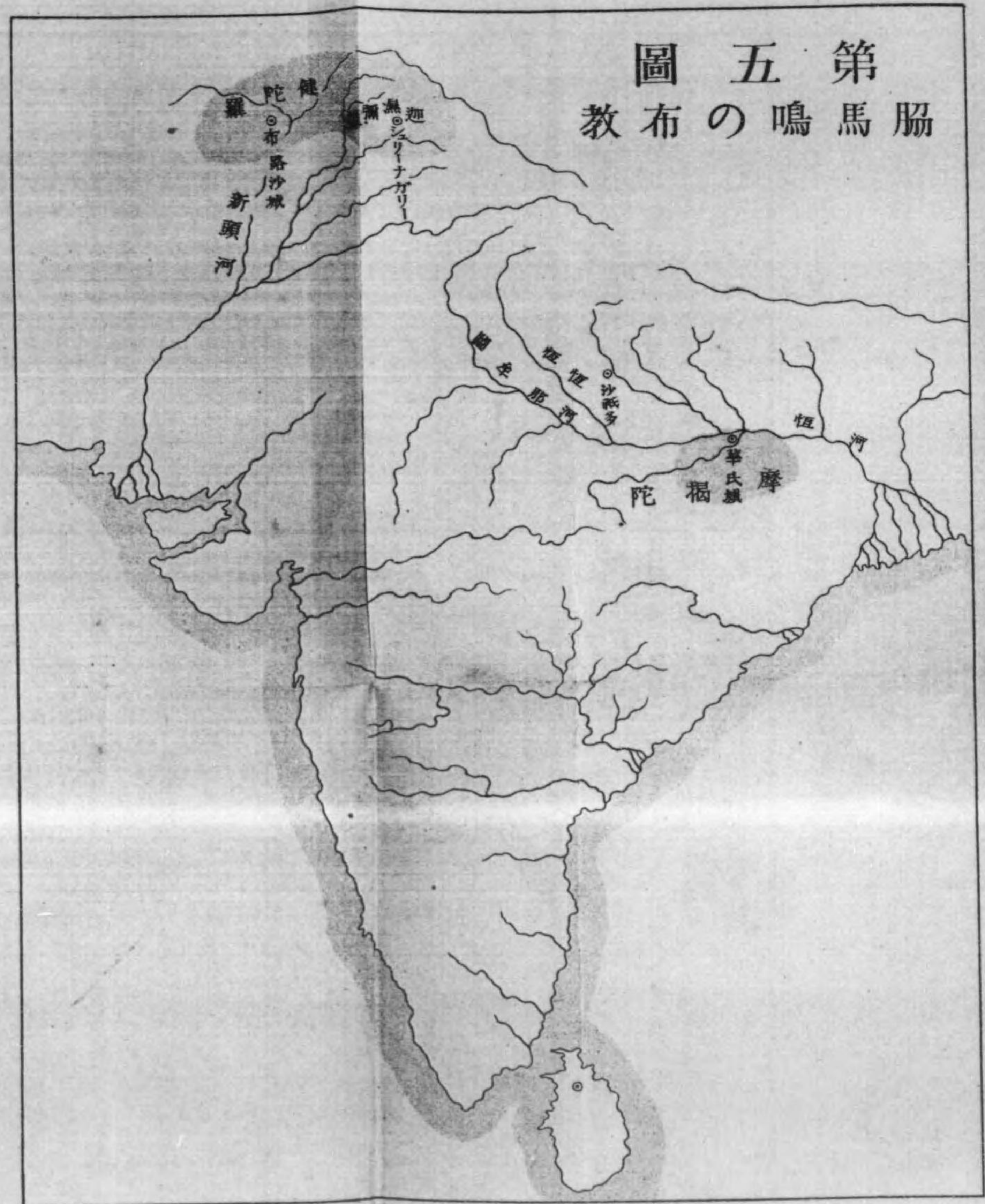
圖四第
度印の代時王迦色膩迦





第七圖
無着親の布教地

無着の布教地 世親の布教地



第五圖
脇馬の鳴布教地

脇、馬の布教地



第八圖
陳那護法辨の布教地



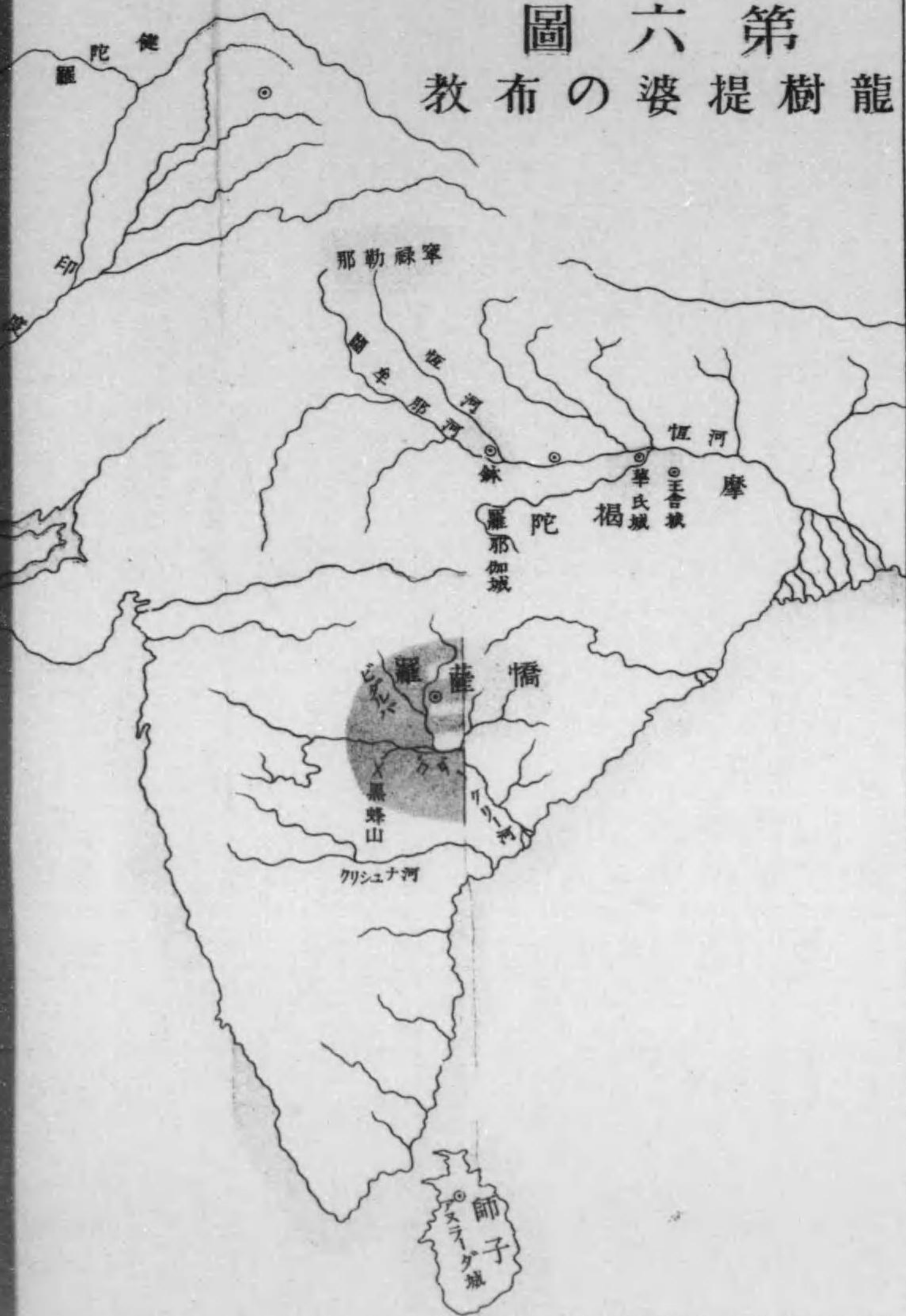
第六圖
龍樹提婆の布教地



露光量違いの為重複撮影

■ 麻・馬蹄の布教地

圖六第 教布の婆提樹龍

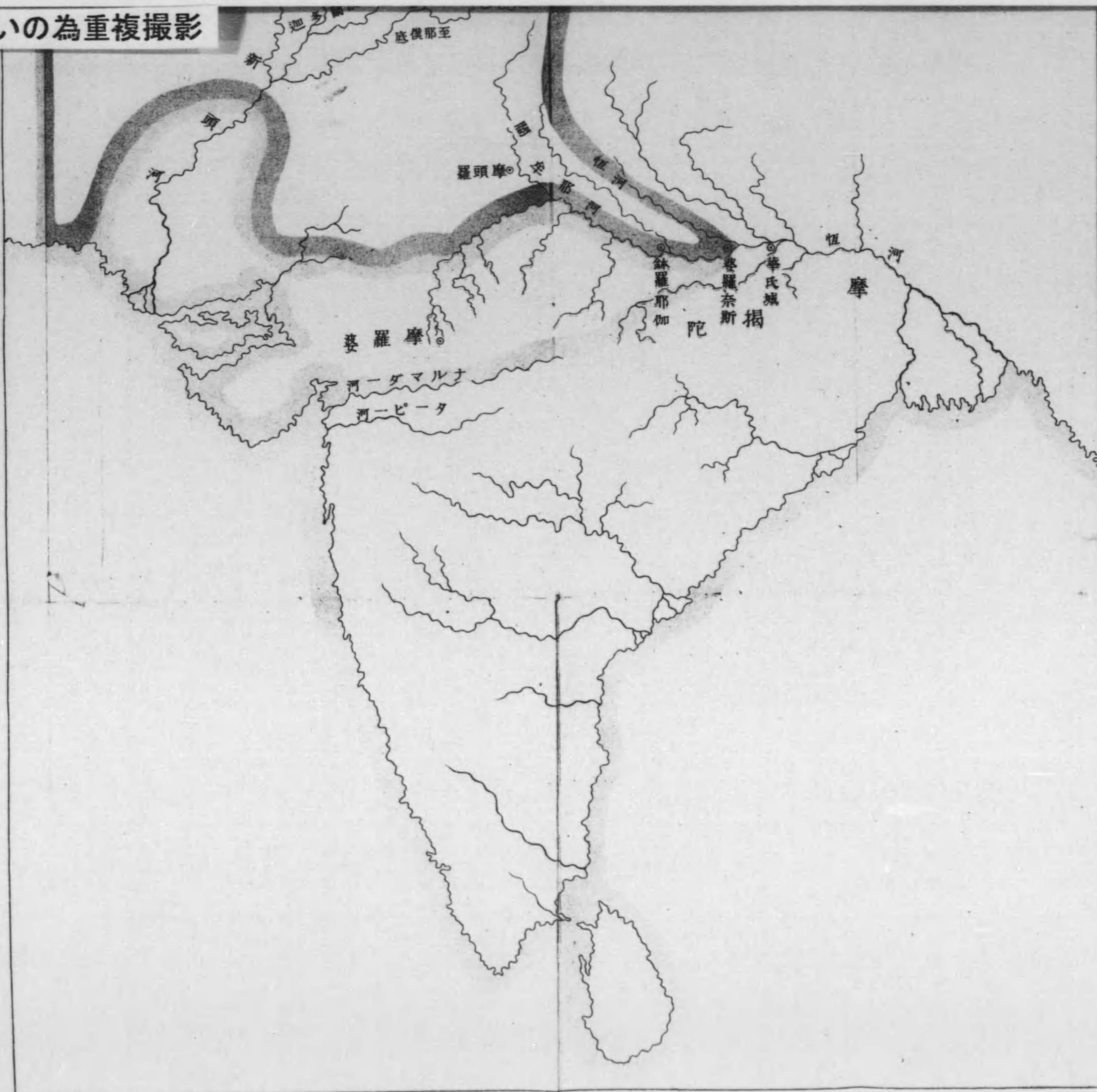


■ 龍樹の布教地

■ 菩提の布教地

■ 迦膩色迦王の領土

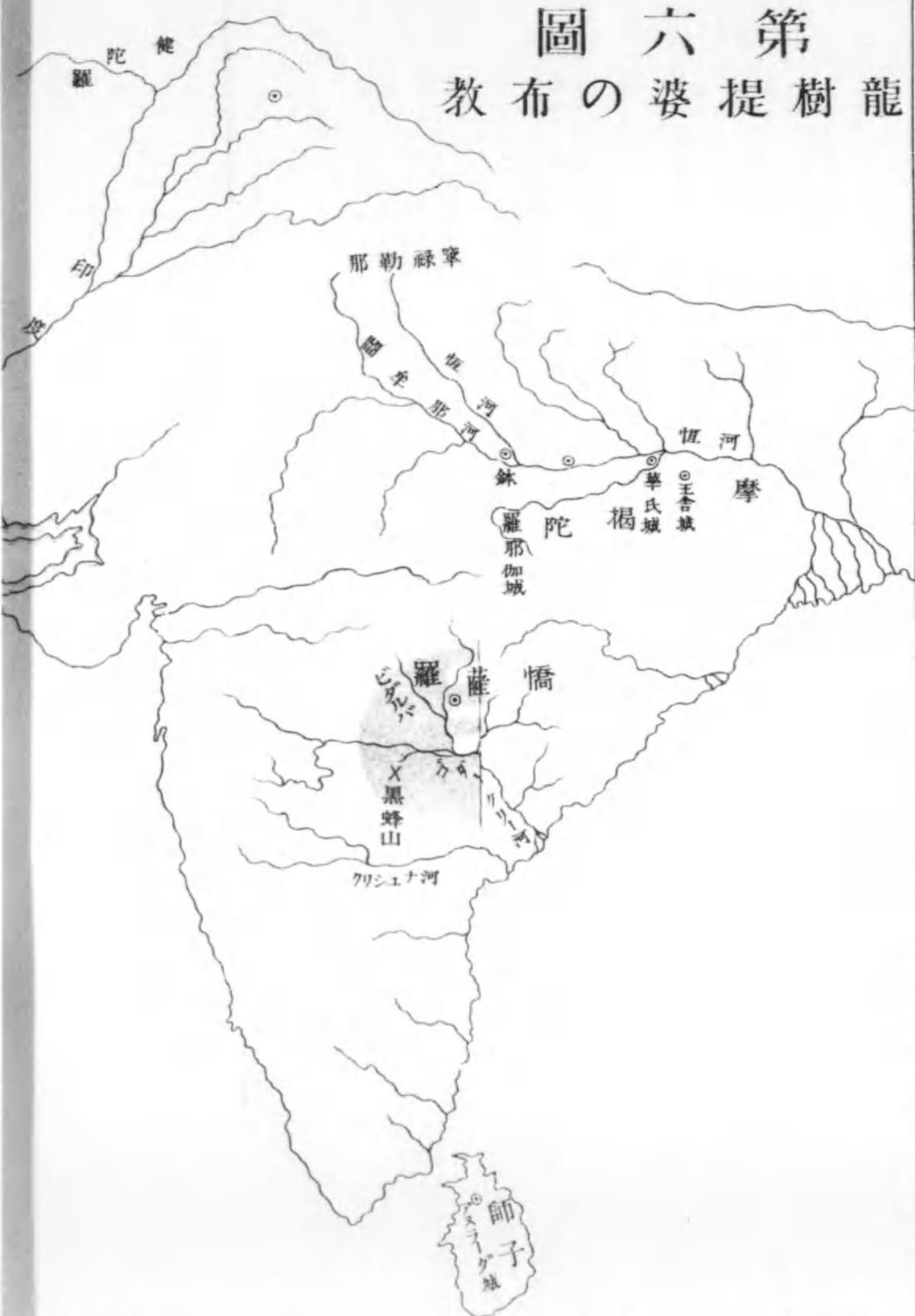
■ 迦膩色迦王の勢力を及ぼせる區域



露光量違いの為重複撮影

□ 勝・馬場ノ布教地

第 六 圖
龍 樹 提 婆 之 布 教



■ 龍樹ノ布教地

□ 提婆ノ布教地



□ 迦 膩 色 連 王 之 領 土

□ 迦 膩 色 連 王 之 勢 力 を 及 ぼ せ る 區 域

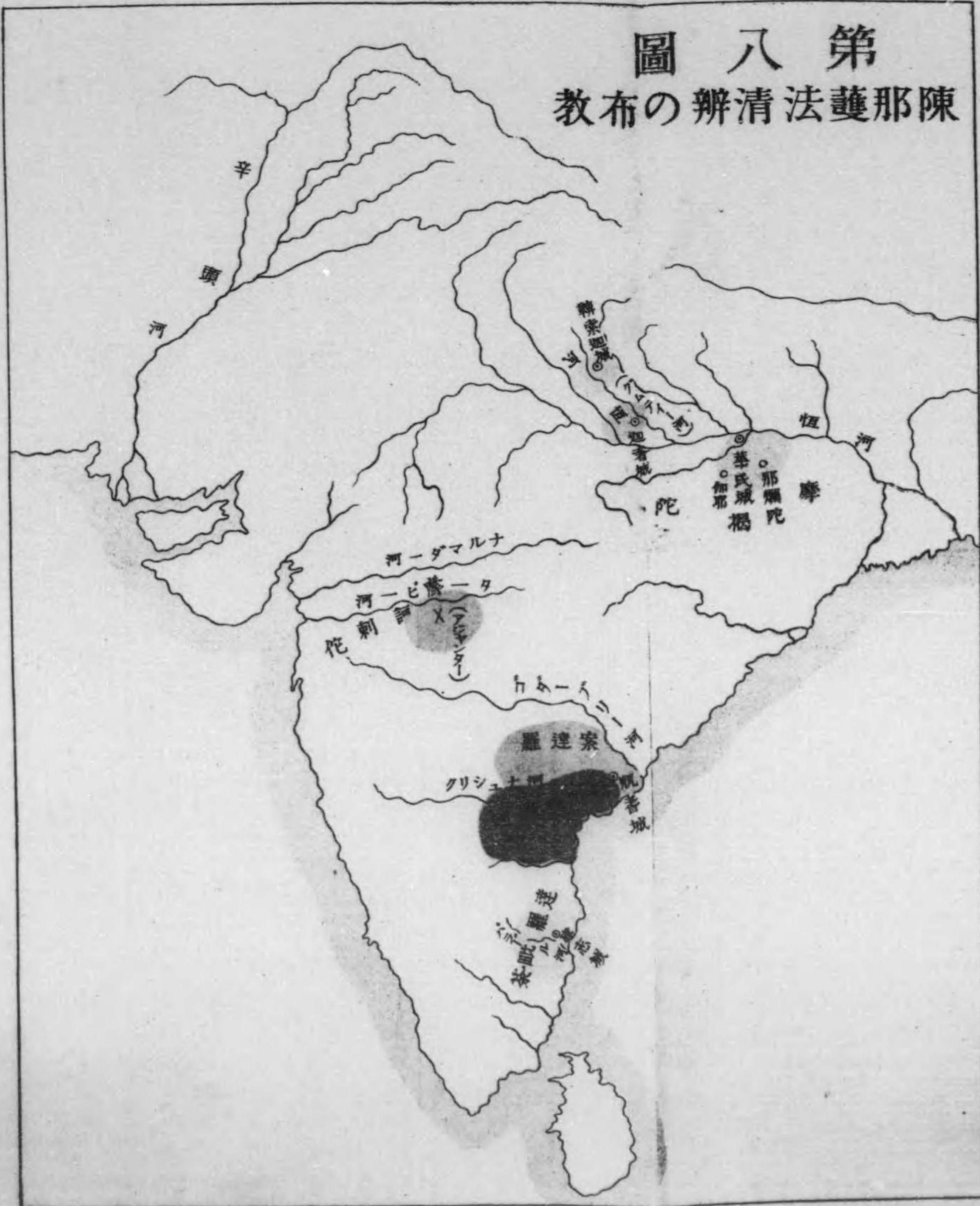
露光量違いの為重複撮影

無着の布教地

世親の布教地

那、龍樹の布教地

圖 八 第
教布の辨清法護那陳

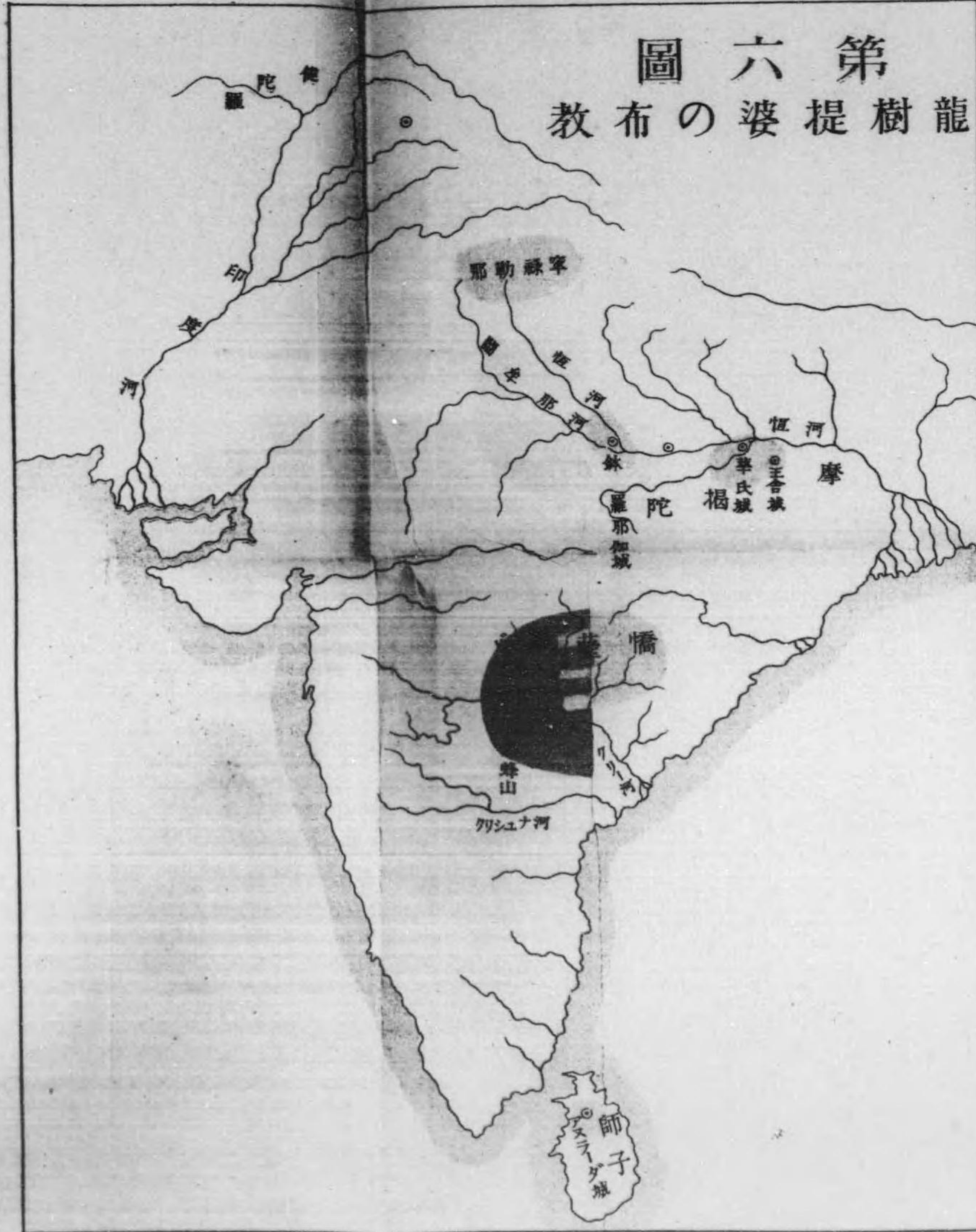


清辨の布教地

護法の布教地

陳那の布教地

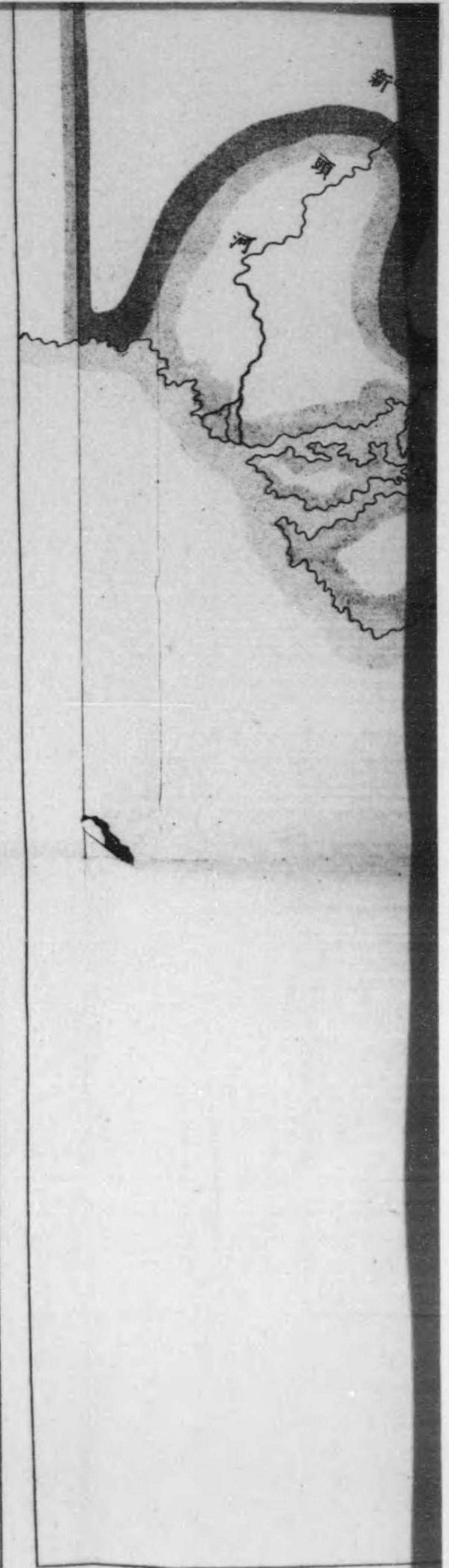
圖 六 第
教布の婆提樹龍



龍樹の布教地

提婆の布教地

迦膩色達王の領



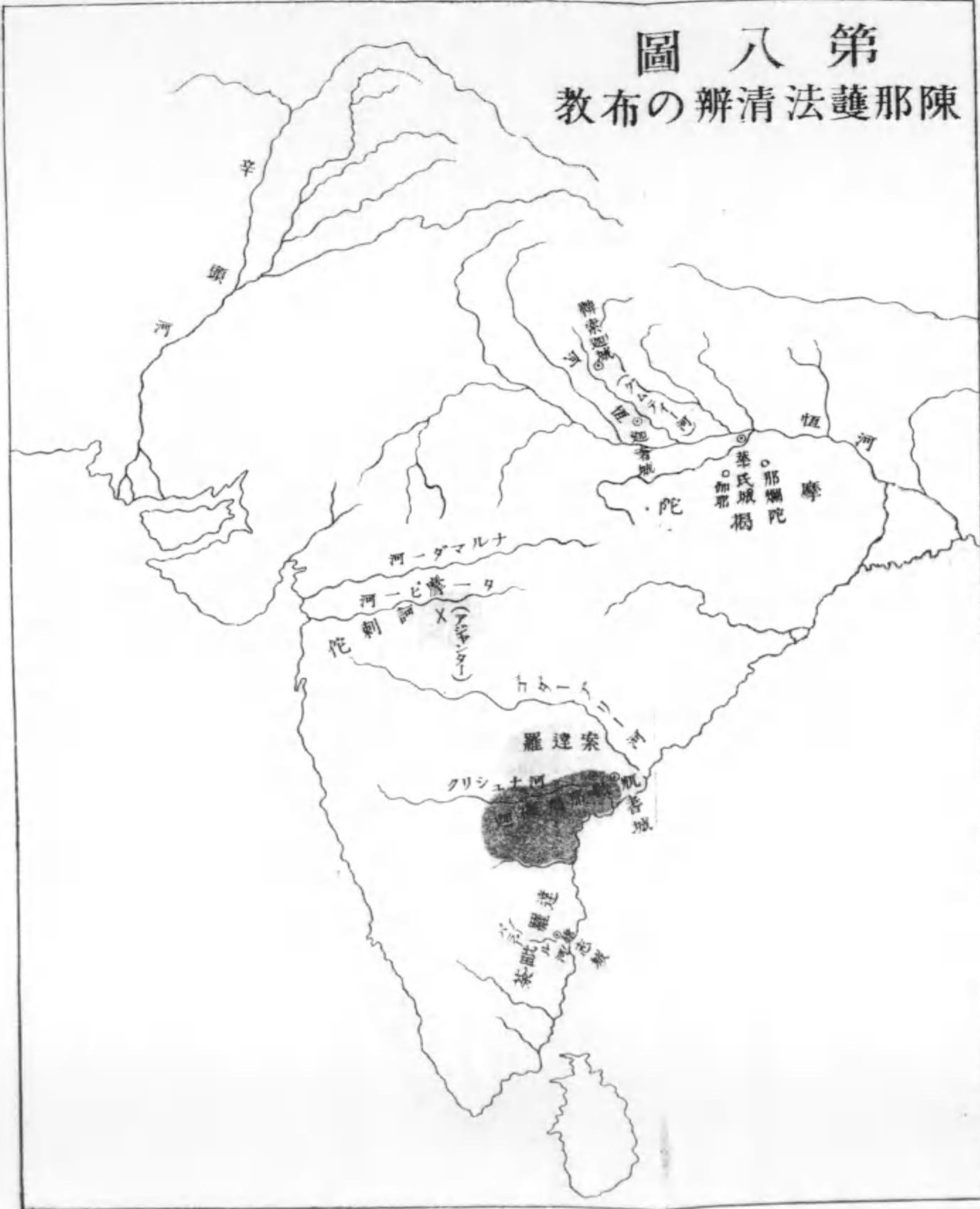
露光量違いの為重複撮影

無着の布教地

世親の布教地

勝、馬勝の布教地

第八圖
陳那護法清辨の布教

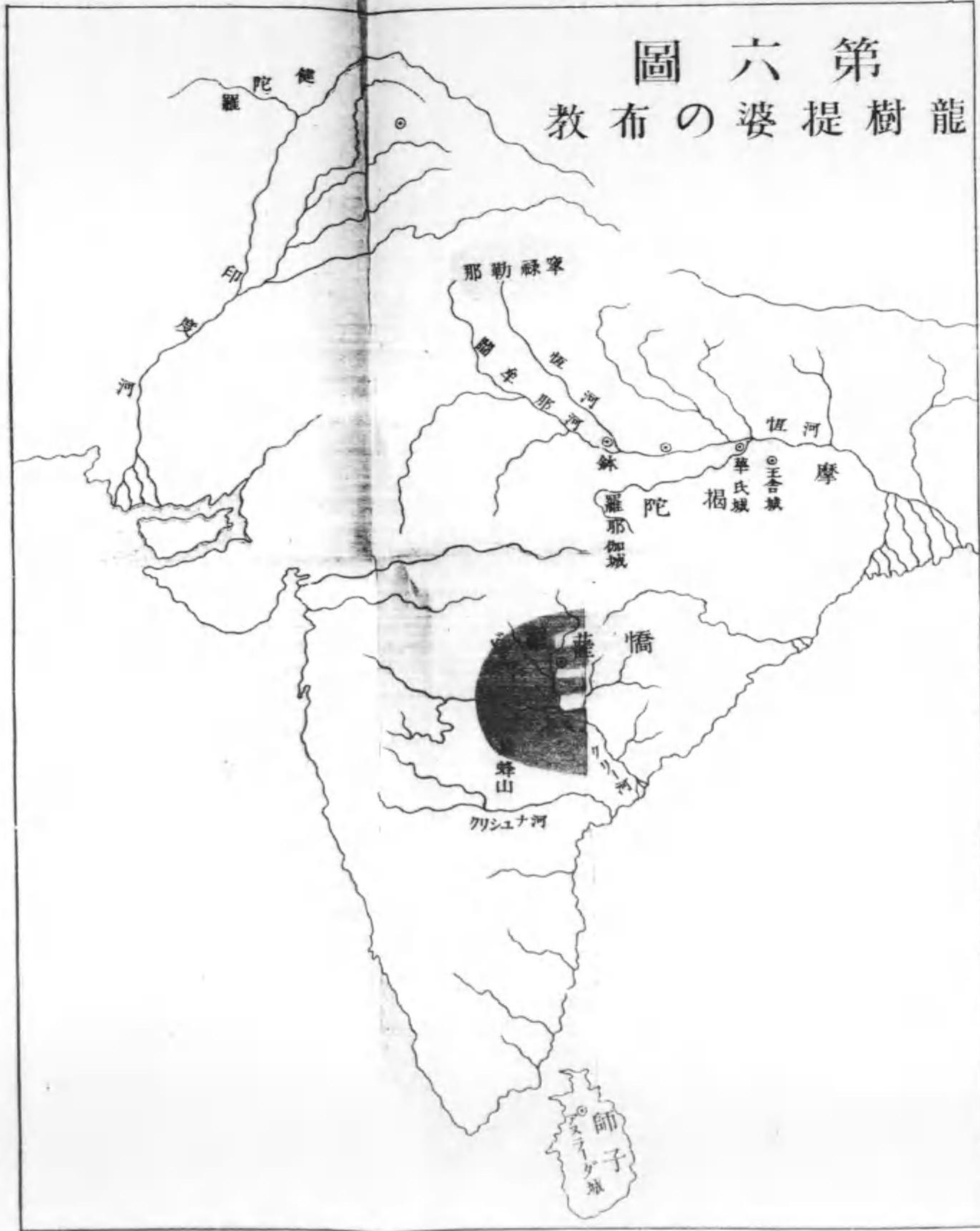


清辨の布教地

護法の布教地

陳那の布教地

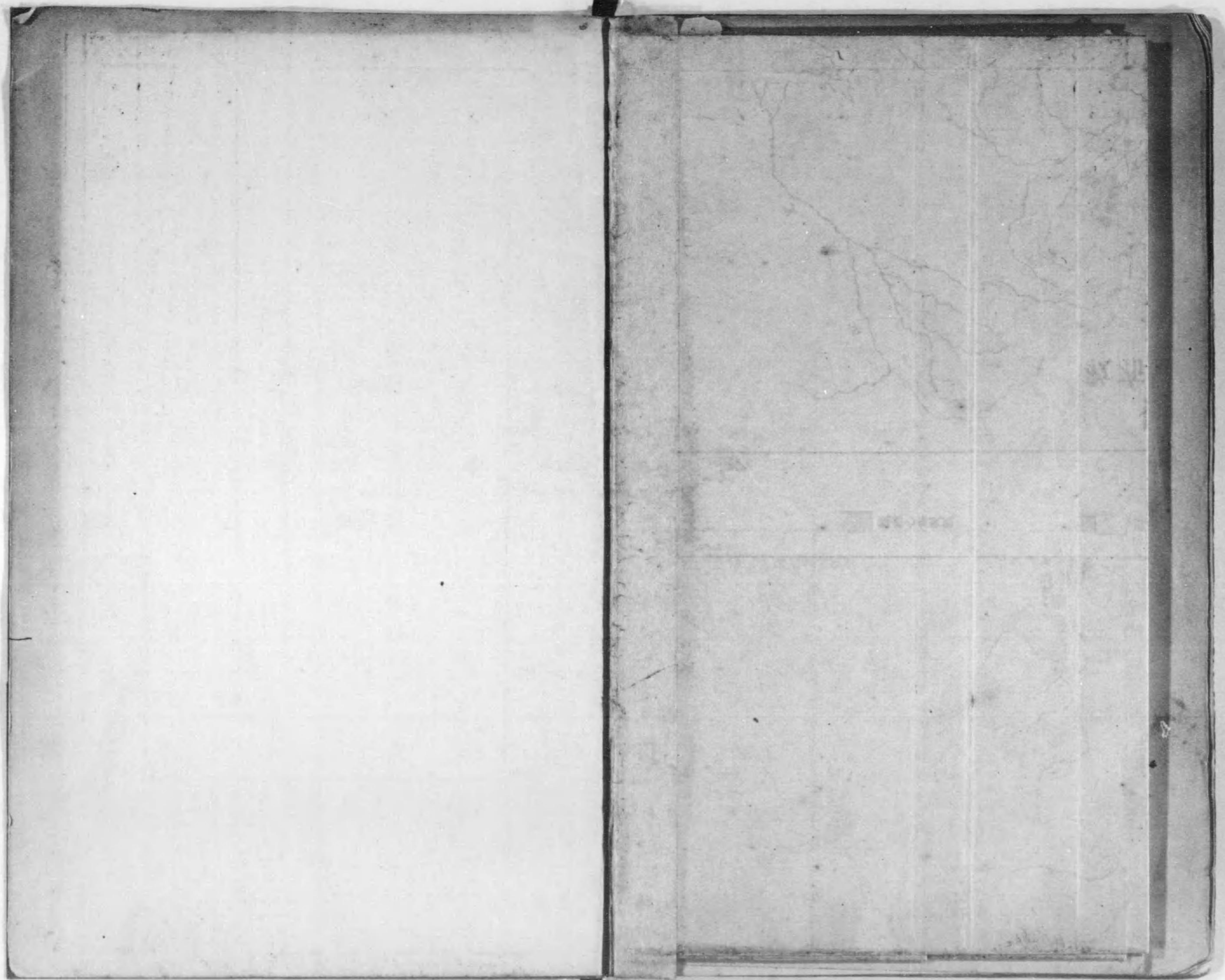
第六圖
龍樹提婆の布教



龍樹の布教地

提婆の布教地

迦膩色連王の領土



324
465

終